

次期未来創生プラン策定のための
調査・分析業務
報告書

平成 31 年 3 月

(株)オーベック

目 次

第Ⅰ章 調査結果分析編

1. 調査概要	1
(1) 実施調査概要	1
(2) 独身者アンケート概要	3
(3) 有配偶者アンケート概要	13
2. アンケート調査結果	25
(1) 独身者アンケート結果	25
(2) 有配偶者アンケート結果	45

第Ⅱ章 資料編

1. 調査票	資 - 1
(1) 独身者アンケート調査票 (郵送)	資 - 1
(2) 独身者アンケート調査票 (インターネット)	資 - 9
(3) 有配偶者アンケート調査票 (郵送)	資 - 17
(4) 有配偶者アンケート調査票 (インターネット)	資 - 25
2. アンケート単純集計結果	資 - 32
(1) 独身者アンケート単純集計	資 - 32
(2) 有配偶者アンケート単純集計	資 - 46
3. アンケートクロス集計結果	資 - 58
(1) 独身者アンケートクロス集計	資 - 58
(2) 有配偶者アンケートクロス集計	資 - 331

第 I 章 調查結果分析編

1 調査概要

(1) 実施調査概要

① 調査方法

アンケート用紙の郵送、またはインターネットによる回答方式

② 調査の対象者

独身者：18～49 歳男女（無作為抽出）

有配偶者：20～49 歳男女（無作為抽出）

③ 調査実施期間

平成 30 年 12 月 7 日～28 日

④ 配布数

総数：20,000 件（独身者：10,000 件、有配偶者：10,000 件）

⑤ 回収サンプル数

・総数：1,717 件／回収率 8.6%

（うち男性：580 件、女性：1,125 件、性別未回答 12 件）

・独身者：721 件／回収率 7.2%

（うち男性 233 件、女性 481 件、性別未回答 7 件）

・有配偶者：996 件／回収率 10.0%

（うち男性 347 件、女性 644 件、性別未回答 5 件）

表 1-1-1 回収サンプル数（全体：性別×年齢）

全体	男性		女性		性別未回答		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
18歳～19歳	27	4.7%	29	2.6%	0	0.0%	56	3.3%
20歳～24歳	56	9.7%	139	12.4%	1	8.3%	196	11.4%
25歳～29歳	72	12.4%	183	16.3%	0	0.0%	255	14.9%
30歳～34歳	110	19.0%	212	18.8%	2	16.7%	324	18.9%
35歳～39歳	111	19.1%	216	19.2%	2	16.7%	329	19.2%
40歳～44歳	96	16.6%	169	15.0%	1	8.3%	266	15.5%
45歳～49歳	103	17.8%	170	15.1%	2	16.7%	275	16.0%
未回答	5	0.9%	7	0.6%	4	33.3%	16	0.9%
全体	580	100%	1,125	100%	12	100%	1,717	100%

表 1-1-2 回収サンプル数（独身者：性別×年齢）

独身者	男性		女性		性別未回答		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
18歳～19歳	27	11.6%	29	6.0%	0	0.0%	56	7.8%
20歳～24歳	53	22.7%	128	26.6%	1	14.3%	182	25.2%
25歳～29歳	46	19.7%	111	23.1%	0	0.0%	157	21.8%
30歳～34歳	34	14.6%	64	13.3%	0	0.0%	98	13.6%
35歳～39歳	27	11.6%	48	10.0%	1	14.3%	76	10.5%
40歳～44歳	16	6.9%	41	8.5%	0	0.0%	57	7.9%
45歳～49歳	28	12.0%	54	11.2%	2	28.6%	84	11.7%
未回答	2	0.9%	6	1.2%	3	42.9%	11	1.5%
全体	233	100%	481	100%	7	100%	721	100%

表 1-1-3 回収サンプル数（有配偶者：性別×年齢）

有配偶者	男性		女性		性別未回答		全体	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
20歳～24歳	3	0.9%	11	1.7%	0	0.0%	14	1.4%
25歳～29歳	26	7.5%	72	11.2%	0	0.0%	98	9.8%
30歳～34歳	76	21.9%	148	23.0%	2	40.0%	226	22.7%
35歳～39歳	84	24.2%	168	26.1%	1	20.0%	253	25.4%
40歳～44歳	80	23.1%	128	19.9%	1	20.0%	209	21.0%
45歳～49歳	75	21.6%	116	18.0%	0	0.0%	191	19.2%
未回答	3	0.9%	1	0.2%	1	20.0%	5	0.5%
全体	347	100%	644	100%	5	100%	996	100%

(2) 独身者アンケート概要

① 独身者の結婚に対する意欲

結婚に対する考えについて、「いずれ結婚するつもり」または「結婚希望はあるが、現時点ではわからない」と回答した未婚者の割合を合わせると、男性が82.9%、女性が87.1%となっている。

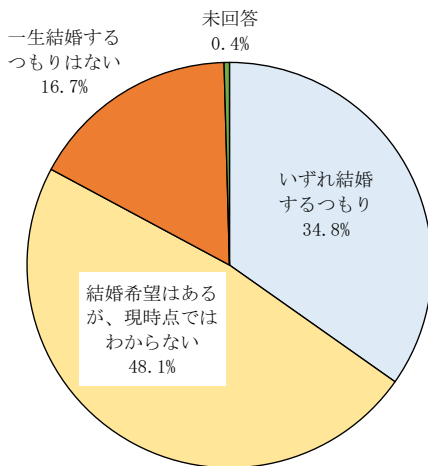


図 2-1-1 結婚に対する意欲(男性)

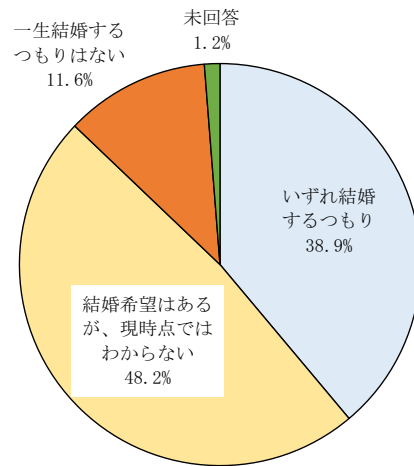


図 2-1-2 結婚に対する意欲(女性)

前回との比較においては、男女ともに「いずれ結婚するつもり」が11%程度増加している。

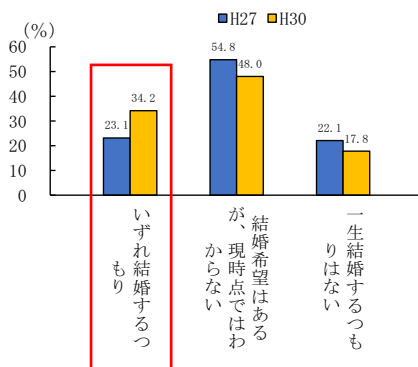


図 2-1-3 結婚に対する意欲 (前回比較男性)

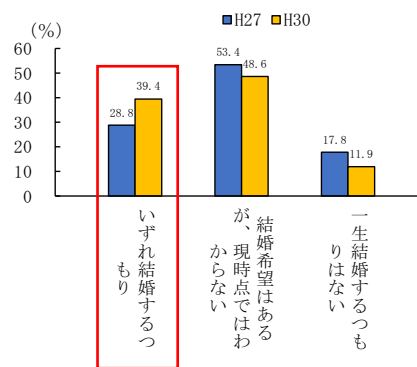


図 2-1-4 結婚に対する意欲 (前回比較女性)

※未回答除く

② 結婚と独身生活の利点

結婚することの利点としては、「精神的な安らぎの場が得られる」との回答が、男性で47.2%、女性で42.0%と多くの割合を占めているが、今回男女共に「経済的に余裕が持てる」という回答が前回より減少しており、特に女性では前回44.4%だったのが今回16.4%と大きく減少していることから、結婚が経済的な余裕に繋がる利点と考えない傾向に進んでいると言える。

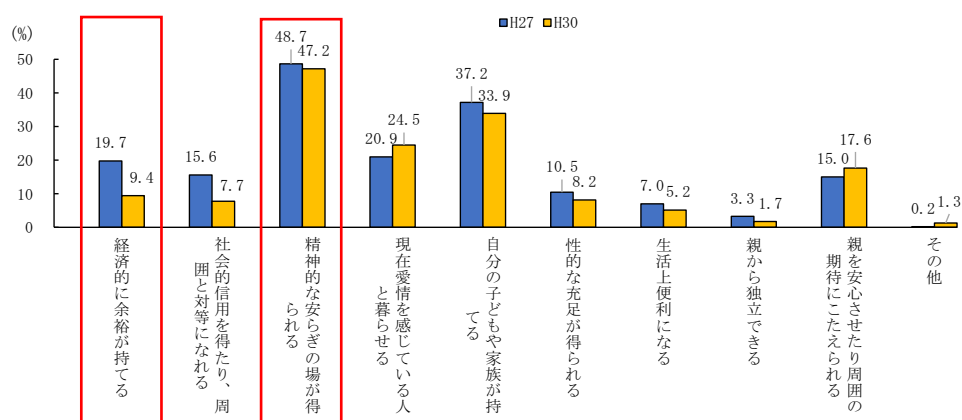


図2-2-1 結婚することの利点(男性)

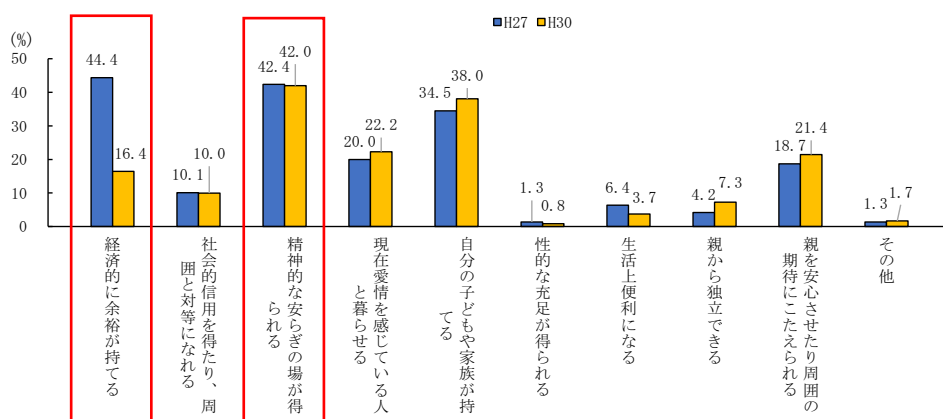


図2-2-2 結婚することの利点(女性)

独身生活の利点については、「行動や生き方が自由」という回答が男性 71.2%、女性 81.1%で最も多かった。前回と比較すると、男性では「行動や生き方が自由」が 16.0%、女性では 9.2%減少している。

また、男性では「金銭的に裕福」が 4.7%減少し、「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」が 9.2%増加している。

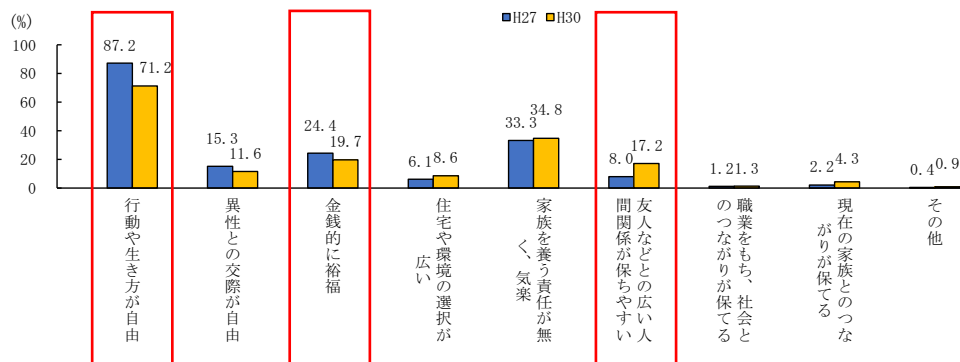


図 2-2-3 独身生活の利点(男性)

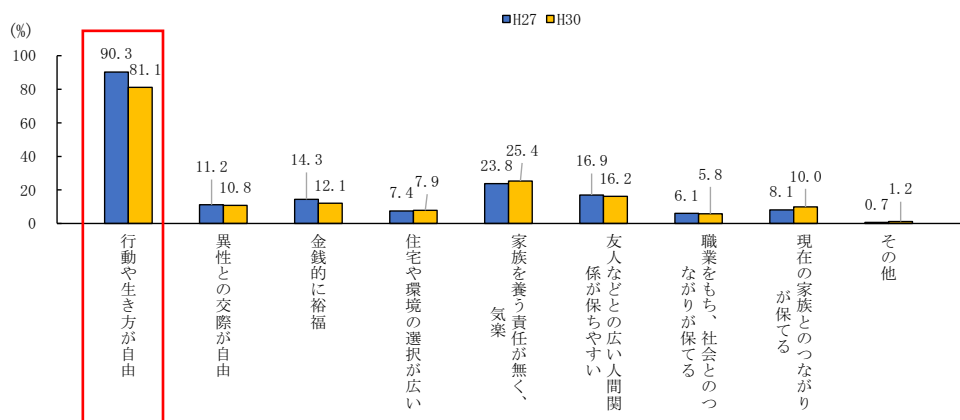


図 2-2-4 独身生活の利点(女性)

③ 結婚へのハードル

一年以内に結婚するとした場合に障害となる項目については、「結婚後の生活を維持していくための資金」が最も高く前回と同様であった。男性61.4%、女性47.0%で、いずれも前回より高い数値となった。また、男性では「非正規で雇用が不安定」の回答が前回より16.7%下がる結果となった。

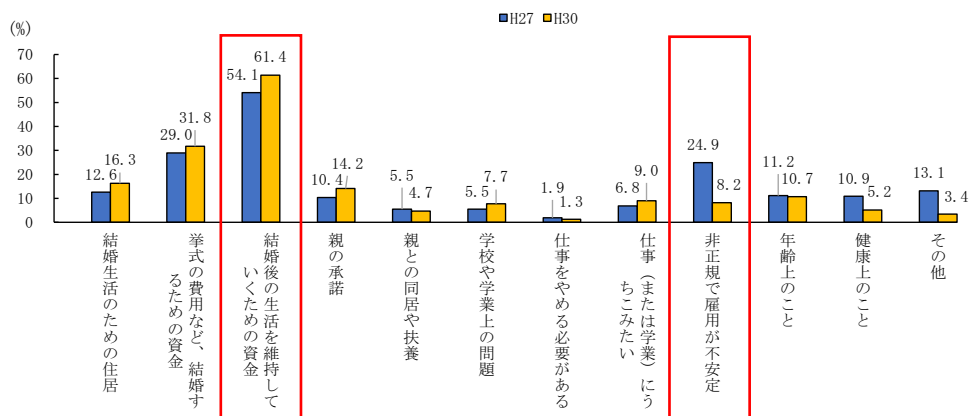


図 2-3-1 結婚へのハードル(男性)

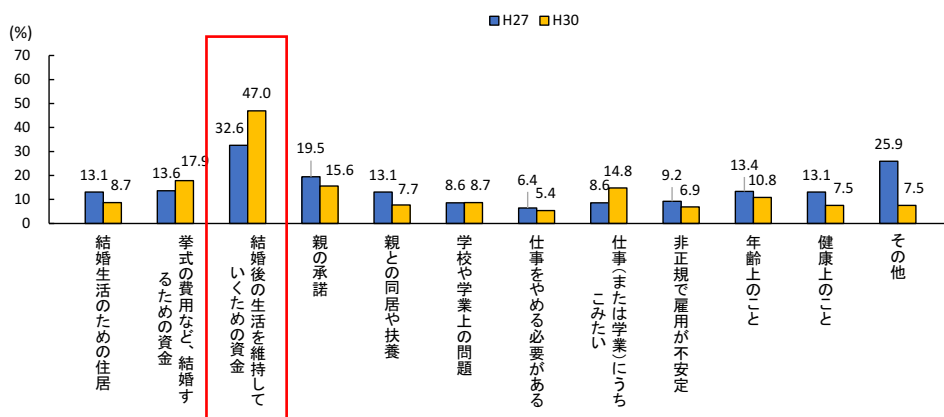


図 2-3-2 結婚へのハードル(女性)

④ 独身でいる理由

独身でいる理由としては、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が男性 25.4%、女性 28.2%と最も高く、続いて「結婚するにはまだ若すぎるから」が男性 14.5%、女性 12.5%と前回を超える数値となった。

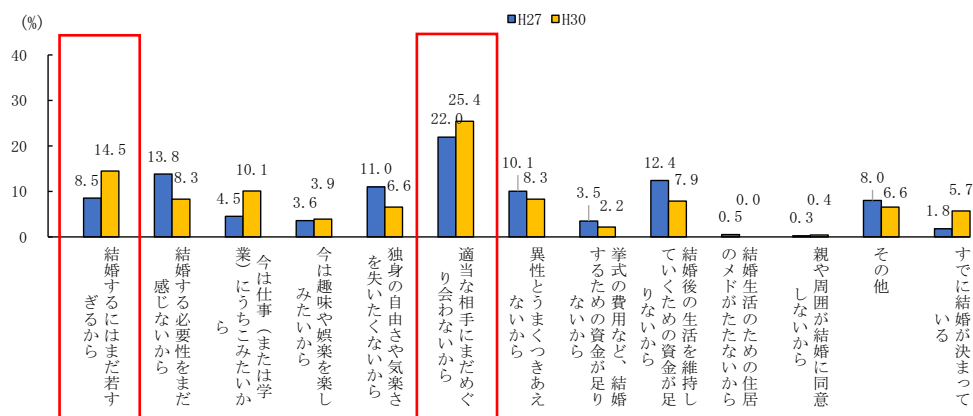


図 2-4-1 独身でいる理由（男性）

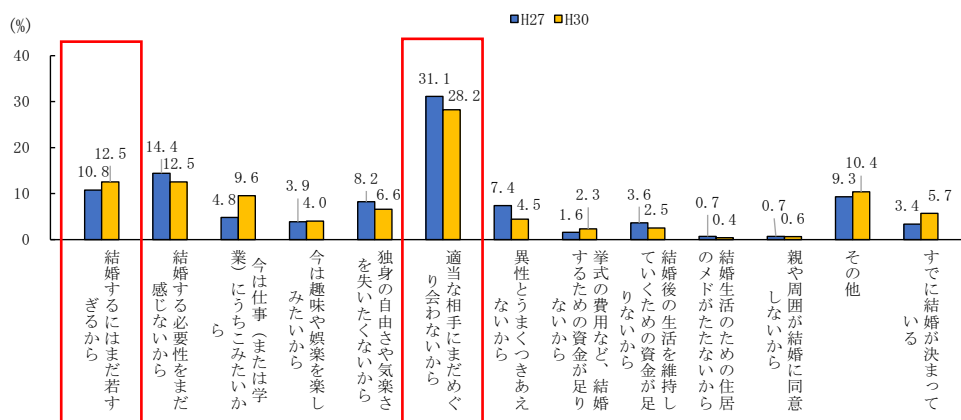


図 2-4-2 独身でいる理由（女性）

職業で、正規の職業についているか否かと交際している異性の有無を見てみると、「交際している異性はいない」と答えた割合が男女ともに非正規の方が多く、その差は男性で特に顕著であった。

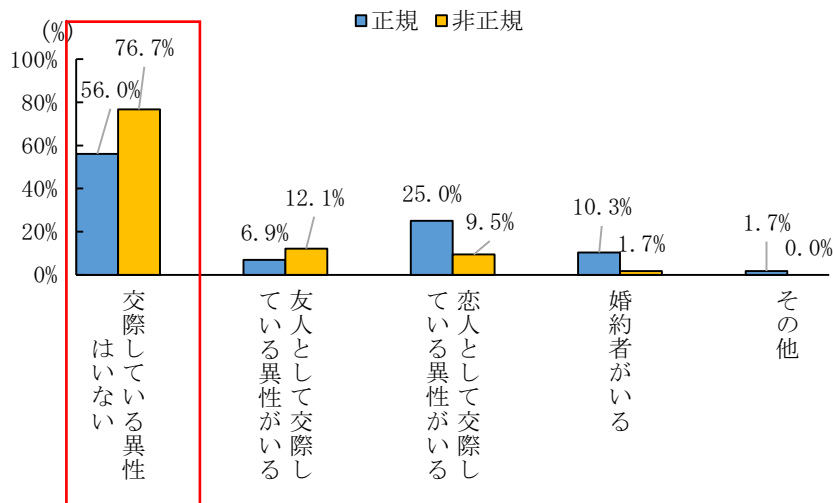


図 2-4-3 交際している異性と職業 (男性)

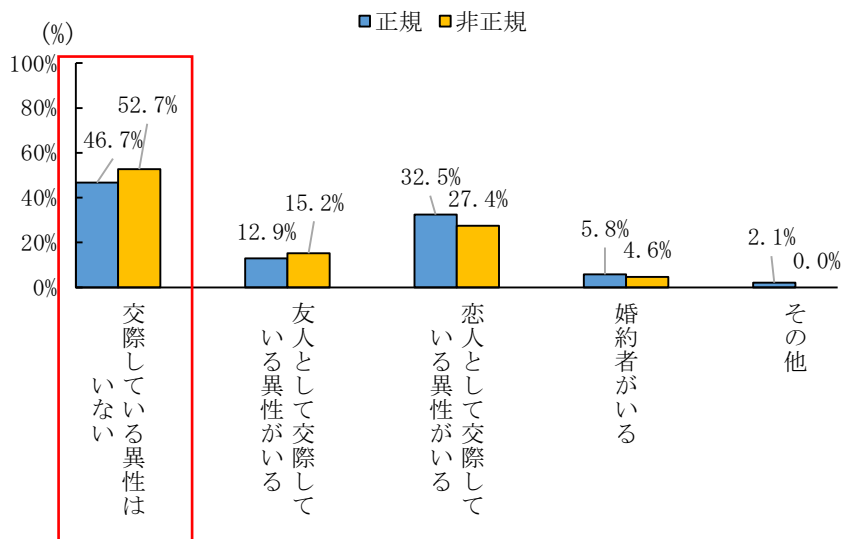


図 2-4-4 交際している異性と職業 (女性)

⑤ 居住期間と子ども希望人数

札幌市の居住期間によって希望する子ども人数にどのような傾向があるか否かを考察すると、女性で2人以上の子どもを希望する割合を合わせると、3年以内で89.2%、3年から10年以内で82.2%、10年以上で81.6%、札幌市にしか居住経験がないで91.1%という結果であった。

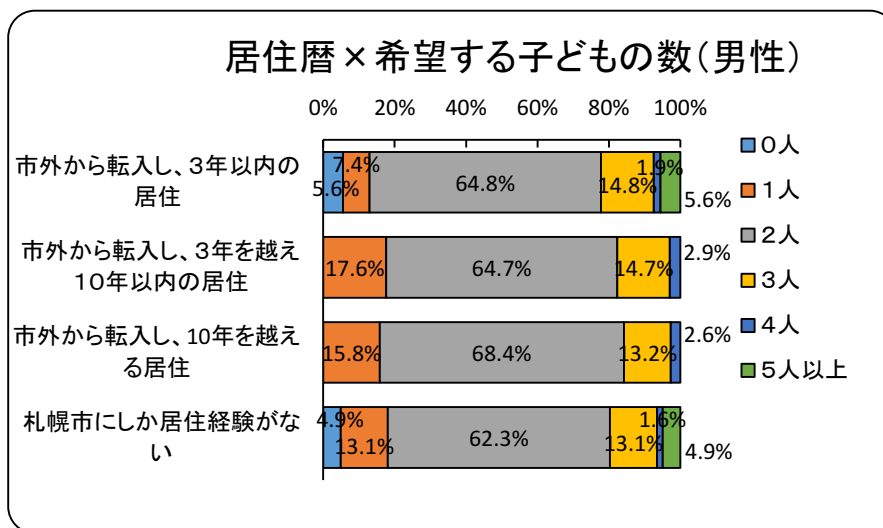


図 2-5-1 居住暦と希望する子ども数 (男性)

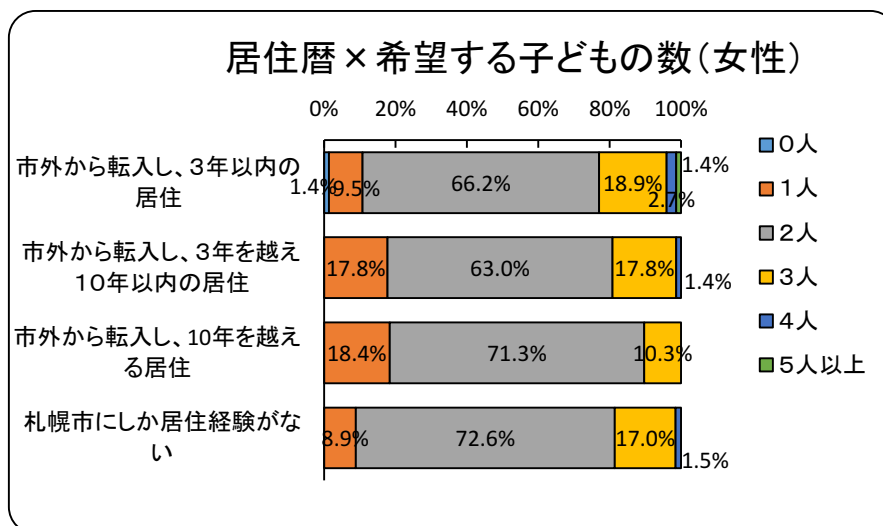


図 2-5-1 居住暦と希望する子ども数 (女性)

表2-5-1 居住暦と希望する子ども数

【居住歴】		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない
上段: 件数 下段: %								
合計		556	72	376	85	9	7	7
		100.0%	12.9%	67.6%	15.3%	1.6%	1.3%	1.3%
男 性		187	24	121	26	4	6	6
		100.0%	12.8%	64.7%	13.9%	2.1%	3.2%	3.2%
居 住 歴	市外から転入し、3年以内の居住	54	4	35	8	1	3	3
		100.0%	7.4%	64.8%	14.8%	1.9%	5.6%	5.6%
	市外から転入し、3年を越え10年以内の居住	34	6	22	5	1	0	0
		100.0%	17.6%	64.7%	14.7%	2.9%	0.0%	0.0%
	市外から転入し、10年を越える居住	38	6	26	5	1	0	0
	100.0%	15.8%	68.4%	13.2%	2.6%	0.0%	0.0%	
	札幌市にしか居住経験がない	61	8	38	8	1	3	3
		100.0%	13.1%	62.3%	13.1%	1.6%	4.9%	4.9%
女 性		369	48	255	59	5	1	1
		100.0%	13.0%	69.1%	16.0%	1.4%	0.3%	0.3%
居 住 歴	市外から転入し、3年以内の居住	74	7	49	14	2	1	1
		100.0%	9.5%	66.2%	18.9%	2.7%	1.4%	1.4%
	市外から転入し、3年を越え10年以内の居住	73	13	46	13	1	0	0
		100.0%	17.8%	63.0%	17.8%	1.4%	0.0%	0.0%
	市外から転入し、10年を越える居住	87	16	62	9	0	0	0
	100.0%	18.4%	71.3%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	札幌市にしか居住経験がない	135	12	98	23	2	0	0
		100.0%	8.9%	72.6%	17.0%	1.5%	0.0%	0.0%

⑥ 結婚観への影響

結婚観に影響を与える情報の入手方法は、男女ともに「人づて」が最も多く、男性 42.9%、女性 39.9%であった。また、情報入手ツールとして昨今一般的と思われるインターネットやSNSは合わせると男性 22.7%、女性 26.6%と約 1/4 程度を占めているが、これまでであったテレビ・ラジオや本・雑誌は 10%前後に留まった。

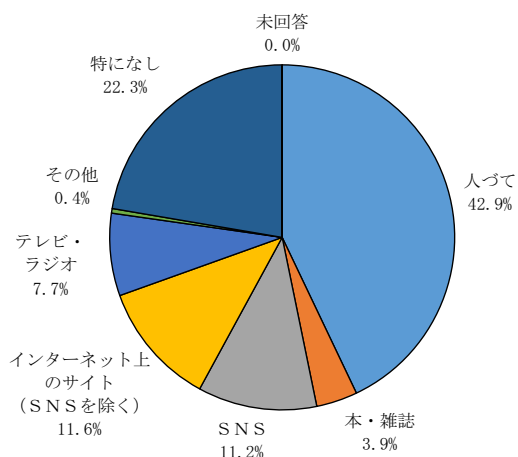


図 2-6-1 結婚観の情報入手先(男性)

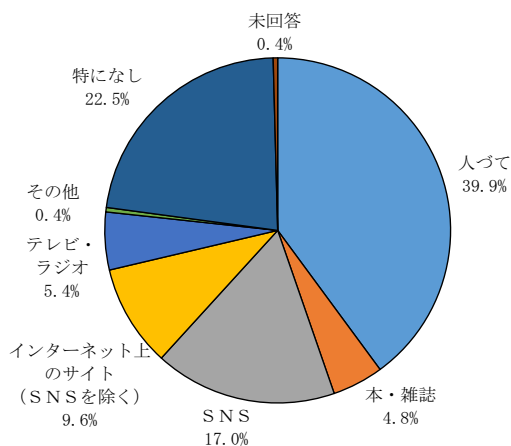


図 2-6-2 結婚観の情報入手先(女性)

結婚観に影響を与える存在としては男女ともに「親」が最も多く、男性 47.2%、女性 55.1%であった。続いて男性は「特になし」が 23.6%、女性は「交友関係」18.7%となった。

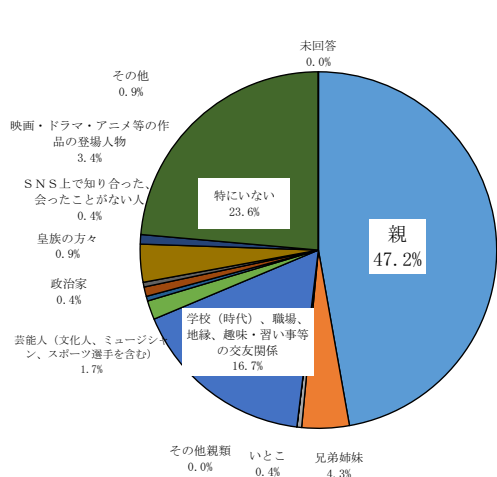


図 2-6-3 結婚観に影響与える存在(男性)

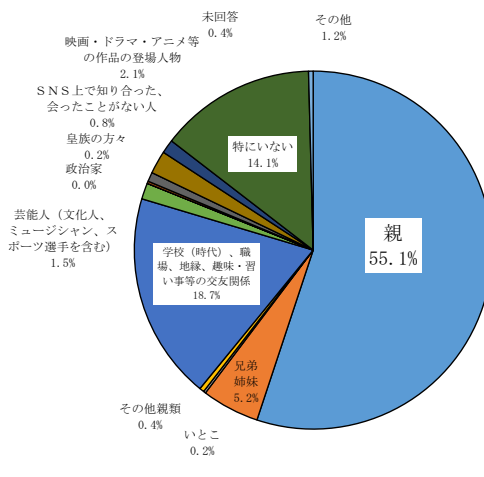


図 2-6-4 結婚観に影響与える存在(女性)

(3) 有配偶者アンケート概要

① 出会いと結婚のきっかけ

夫婦が知り合ったきっかけは、前回の調査結果と回答の割合比率に大きな変化は見られず、男女ともに「職場や仕事の関係で」の割合が最も高く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が高い結果となった。

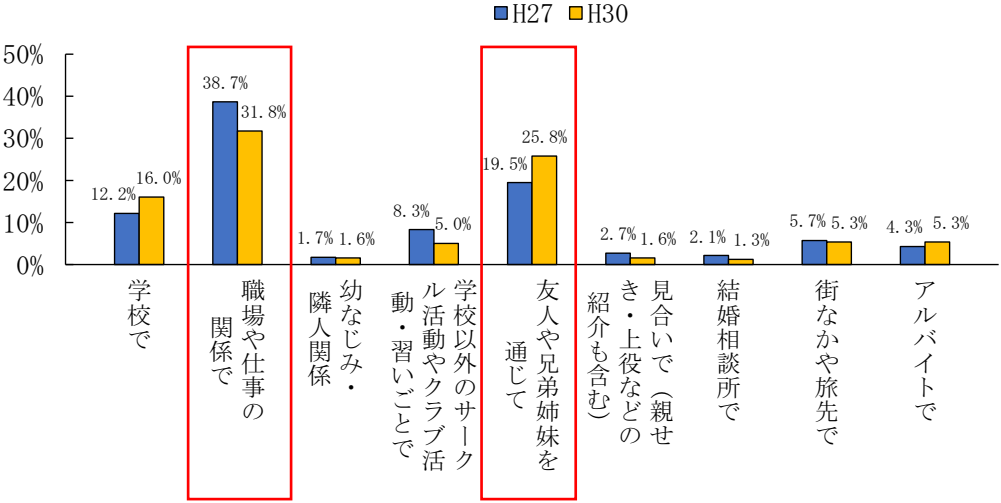


図2-1-1 夫婦の知り合ったきっかけ（男性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

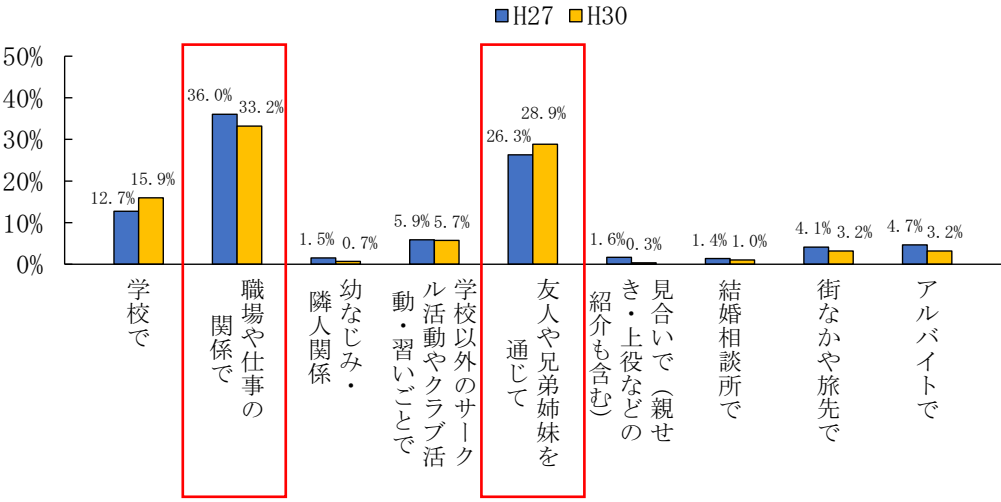


図2-1-2 夫婦の知り合ったきっかけ（女性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

夫婦が最終的に結婚を決めたきっかけについては、最も高いのは男女ともに「年齢的に適当な時期だと感じた」であったが、前回の調査結果との変化で傾向を見ると男性の場合は、「自分または相手の仕事の事情」が増加、女性は「子どもができた」が減少傾向であることがわかる結果となった。

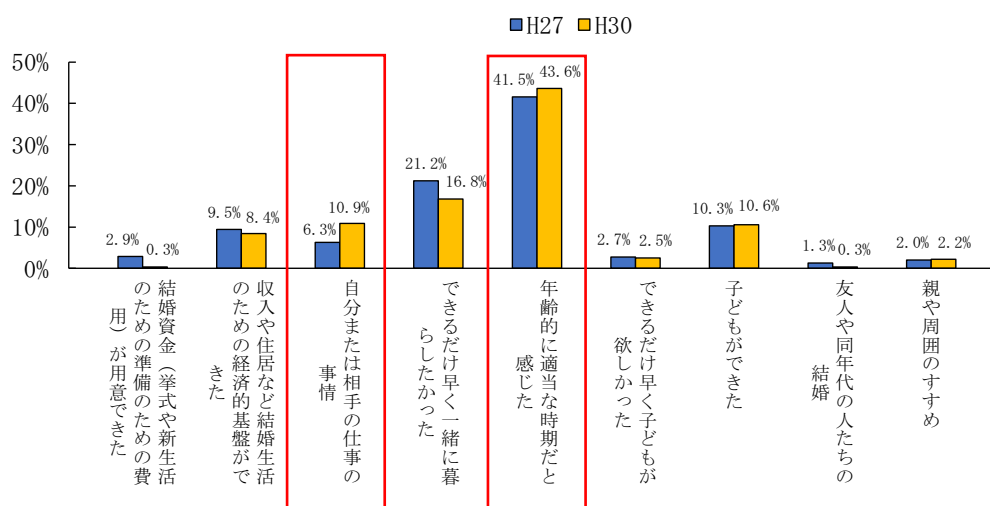


図 2-1-3 結婚を決めたきっかけ (男性：初婚)
(前回調査比較) ※H30 未回答を除く

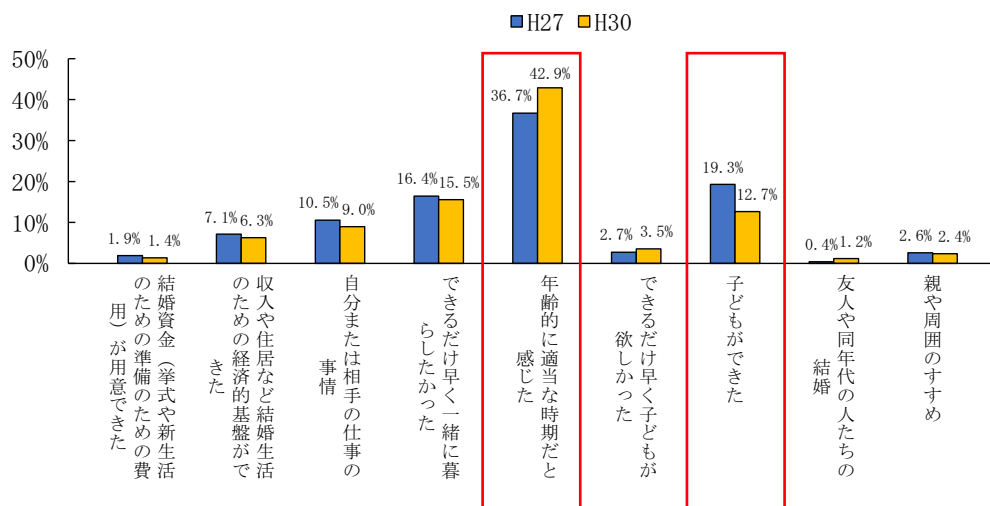


図 2-1-4 結婚を決めたきっかけ (女性：初婚)
(前回調査比較) ※H30 未回答を除く

② 完結出生児数、予定子ども数及び理想子ども数

結婚持続期間が「15～19年」の有配偶者の出生子ども数（完結出生児数）は、1.80人となっている。

表 2-2-1 出生子ども数の割合（女性：初婚）

結婚持続年数	総数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均出生子ども数
総数	593	37	114	304	106	23	8	1.98
	100.0%	6.3%	19.3%	51.3%	17.9%	3.9%	1.4%	
15年未満	452	24	83	242	76	19	8	2.02
	100.0%	5.3%	18.4%	53.5%	16.8%	4.2%	1.8%	
15～19年	85	10	20	35	17	3	0	1.80
	100.0%	11.8%	23.5%	41.2%	20.0%	3.5%	0.0%	
20年以上	54	3	11	26	13	1	0	1.96
	100.0%	5.6%	20.4%	48.1%	24.1%	1.9%	0.0%	

予定子ども数（これまで持った子どもの数+今後持つつもりの子どもの数）は、前年と変わらず男女ともに「2人」が最も高い割合であった。また、男女ともに「0人」の割合が減少していることから、子どもを望む傾向が増加していると考えられる。

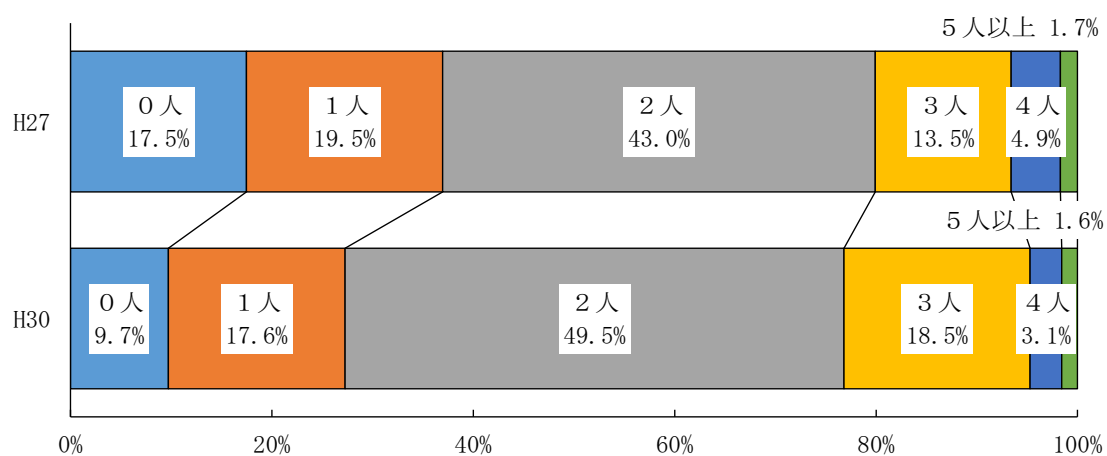


図 2-2-1 予定子ども数の割合（男性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

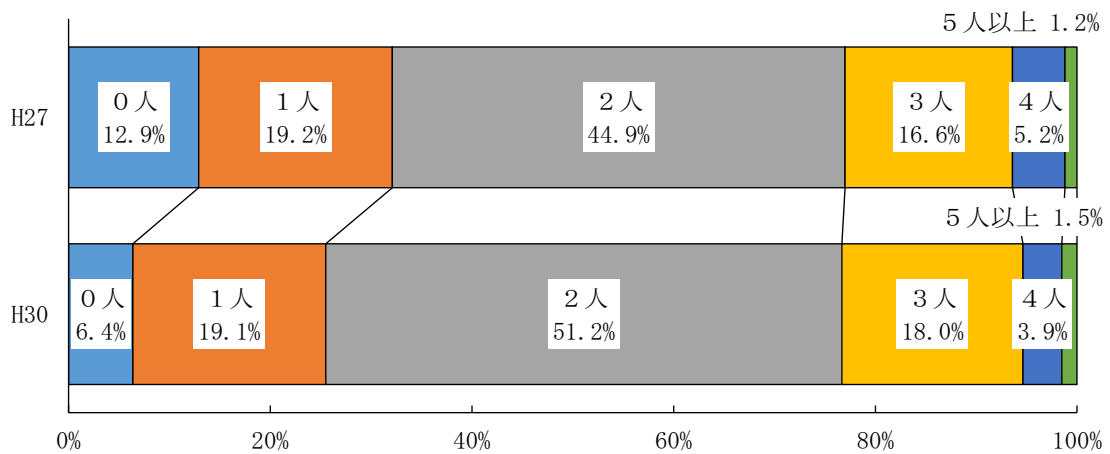


図 2-2-2 予定子ども数の割合（女性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

理想子ども数（理想的な子どもの数）についても、男女ともに「2人」が最も高い割合で予定子ども数での傾向と似た結果となった。

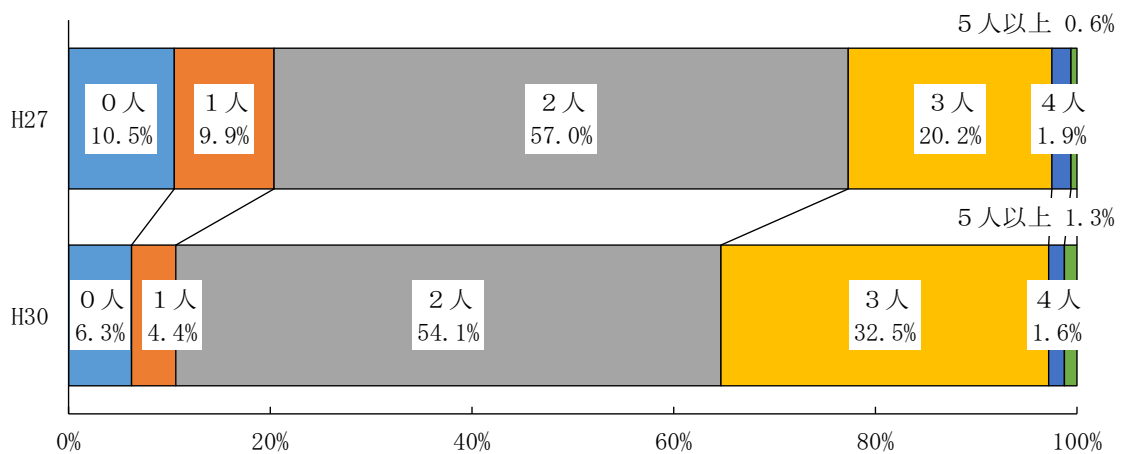


図 2-2-3 理想子ども数の割合（男性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

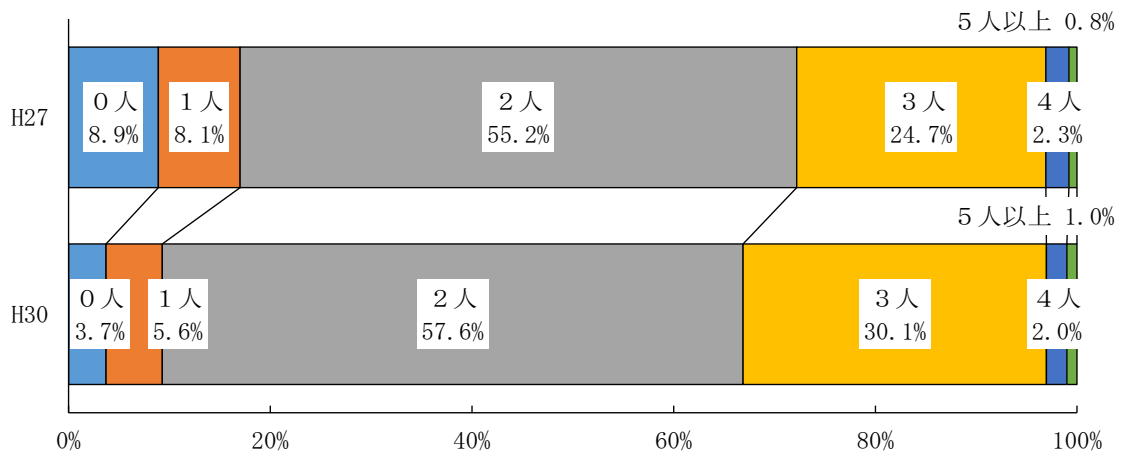


図 2-2-4 理想子ども数の割合（女性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

また、予定子ども数と理想子ども数を比べてみると、男女ともに2～3人の割合が、予定より理想の方が高くなっている。

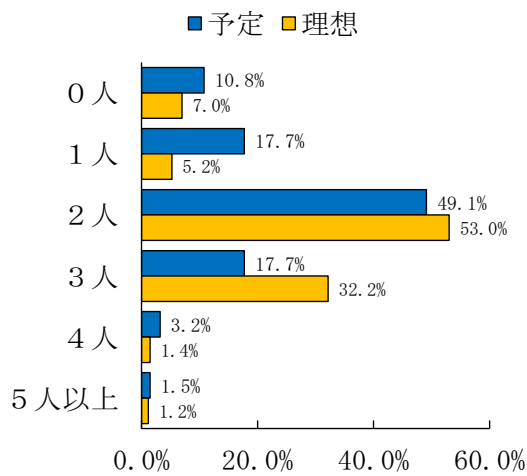


図 2-2-5
理想子ども数と予定子ども数の割合比較
（男性：初婚）※H30 未回答を除く

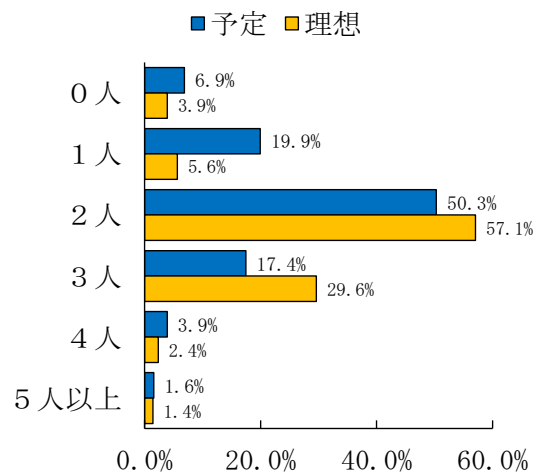


図 2-2-6
理想子ども数と予定子ども数の割合比較
（女性：初婚）※H30 未回答を除く

③ 予定子ども数や理想子ども数がかなえられない要因

「予定子ども数を持つことができないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いか」の問いに対しては、前回調査結果とは異なり男女ともに「収入が不安定なこと」が大きく下がり、「自分や配偶者の仕事（勤めや家業）の事情」などの理由に近い割合となった。また、男性の場合は女性に比べて「保健所など子どもの預け先がないこと」や「家事・育児の協力者がいないこと」の差が大きく、予定の子ども数を持っていない要因であることが考えられる。

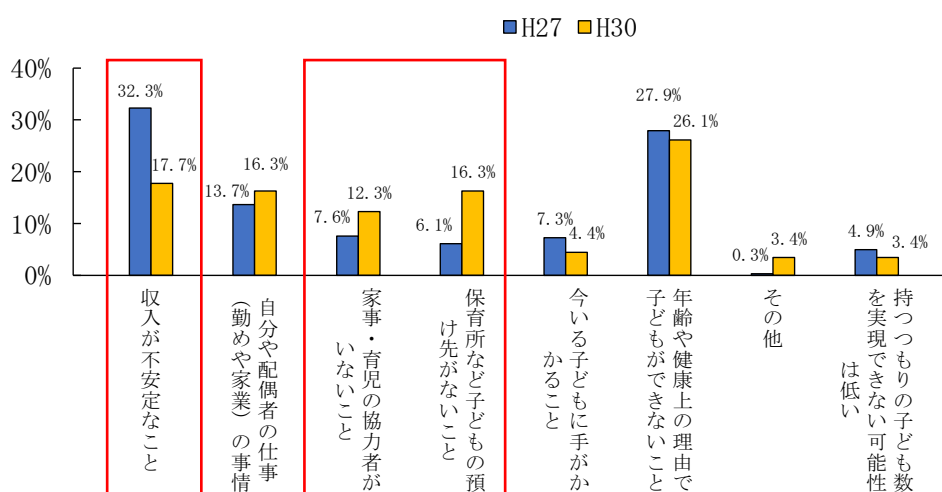


図 2-3-1 予定子ども数を実現できない可能性の理由別割合（男性：初婚）（前回調査比較）※複数回答/H30 未回答を除く

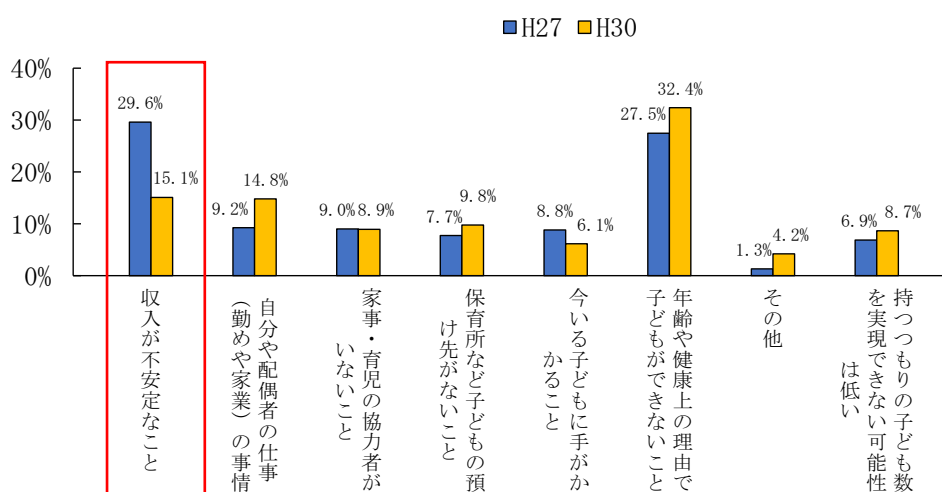


図 2-3-2 予定子ども数を実現できない可能性の理由別割合（女性：初婚）（前回調査比較）※複数回答/H30 未回答を除く

また、予定子ども数が理想子ども数より少ない人数で回答した方に、理想子ども数が持てない最大の理由について尋ねたところ、男女ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が高い結果となった。次いで前回調査結果と同様に「収入が少ないまたは収入が不安定だから」、「高年齢で生むのはいやだから」が高く、また男性では「これ以上育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」の差が女性に比べ多かった。

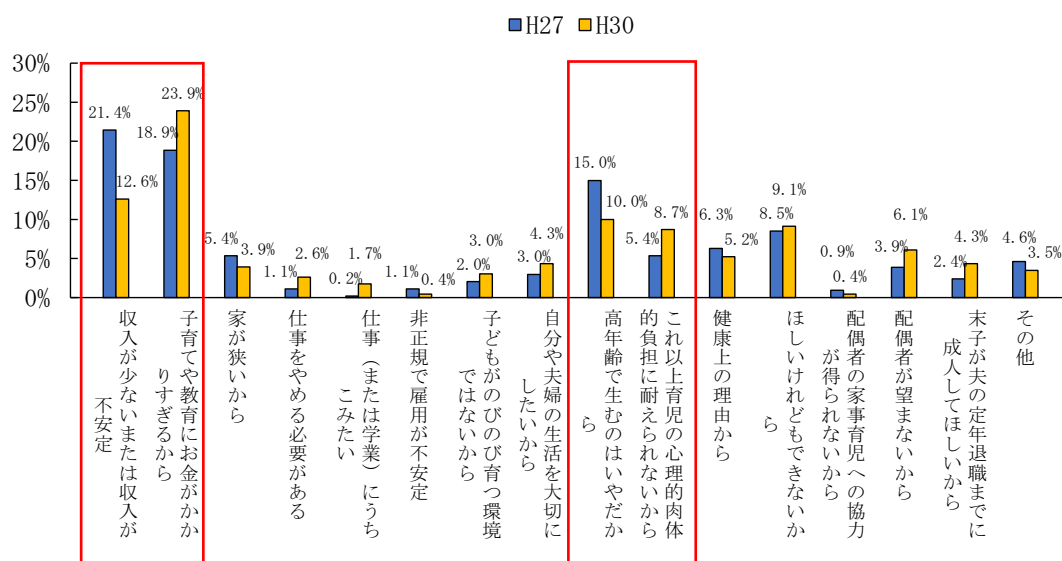


図 2-3-3 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由別割合（男性：初婚）（前回調査比較）※H30 未回答を除く

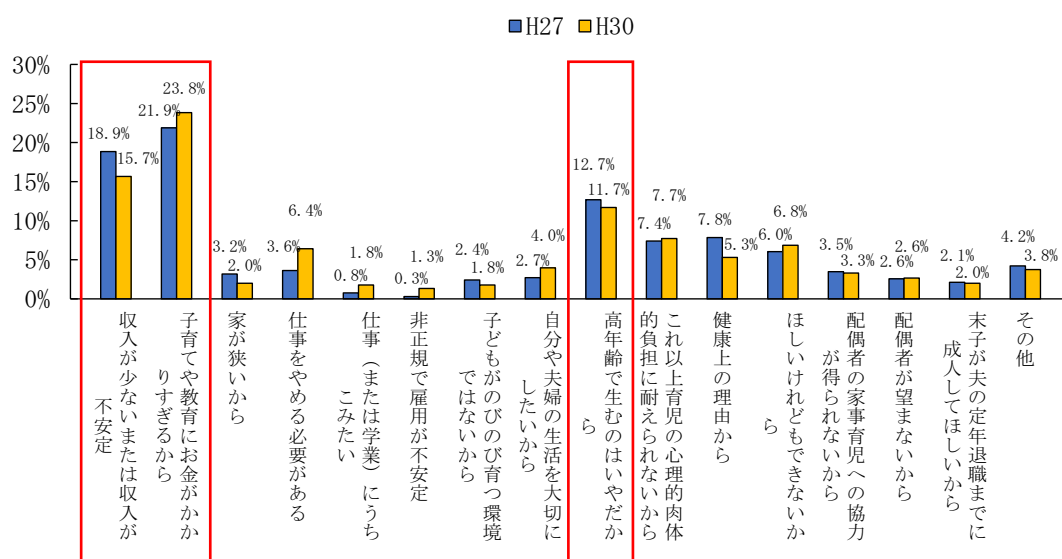


図 2-3-4 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由別割合（女性：初婚）（前回調査比較）※H30 未回答を除く

④ 札幌市の居住期間からみた夫婦の予定子ども数

札幌市に居住する年数から予定子ども数を全体的に見ると、男女ともに「2人」の割合が高い結果となった。居住年数別での子ども数の割合から見ると、市外から転入し3年～10年以内の場合は比較的「2人」、「3人」の割合が高いが、10年を越える場合や札幌市のみの居住であると、予定子ども数は「1人」、「2人」の割合が高くなる傾向があった。また、市外からの転入をみると、女性は男性に比べて1人以上の回答割合が高い傾向にあった。

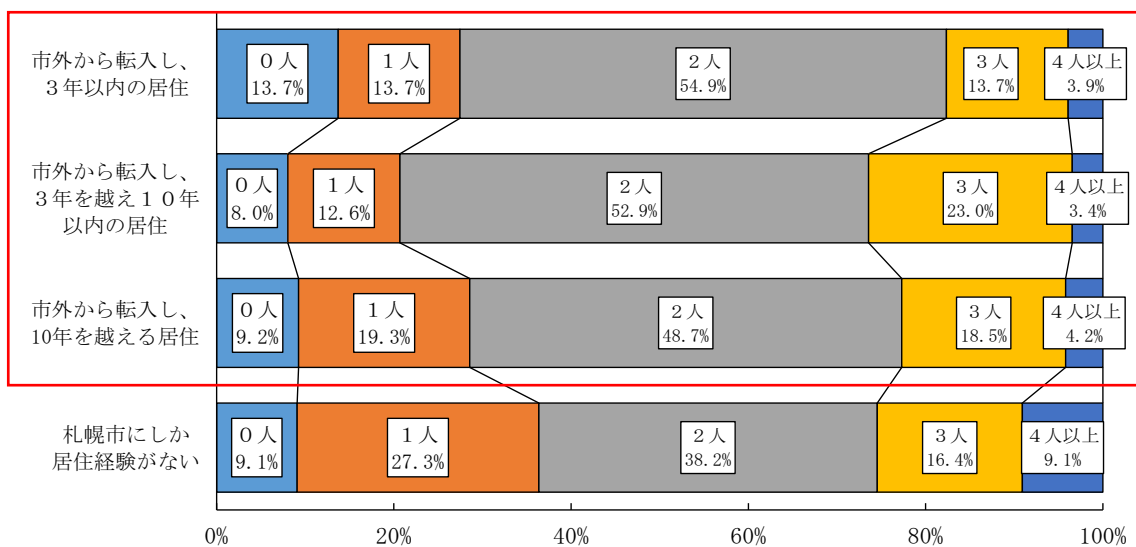


図2-4-1 札幌市の居住期間と予定子ども数の人数別割合（男性：初婚）
※H30未回答を除く

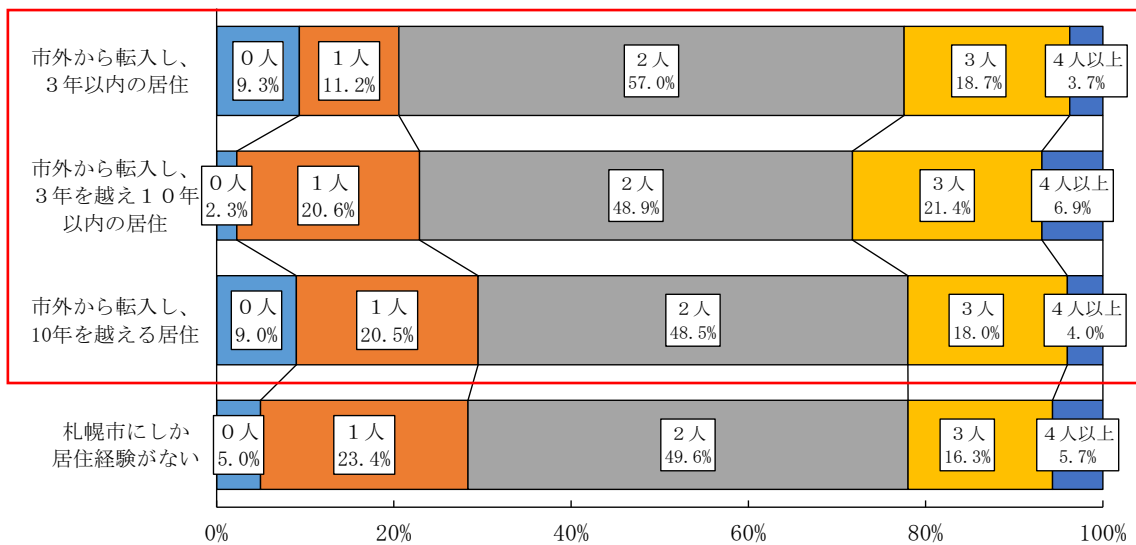


図2-4-2 札幌市の居住期間と予定子ども数の人数別割合（女性：初婚）
※H30未回答を除く

また、回答別の予定子ども数は「市外から転入し、3年を越え10年以内の居住」だと男女ともに2人以上、他の回答でも1.8人と約2人に近い結果となった。

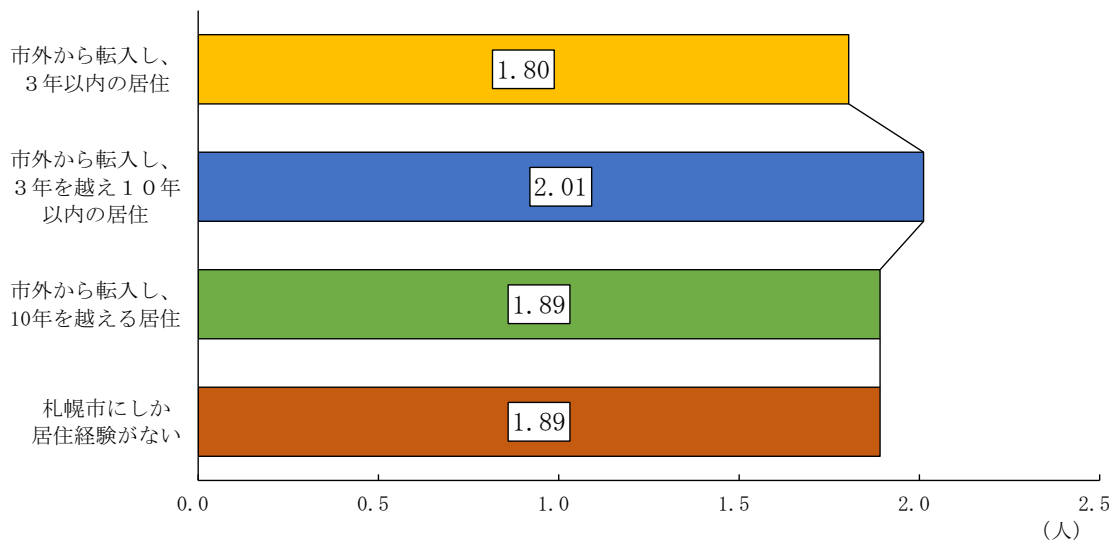


図 2-4-3 札幌市の居住期間からみた予定子ども数（男性：初婚）
※H30 未回答を除く

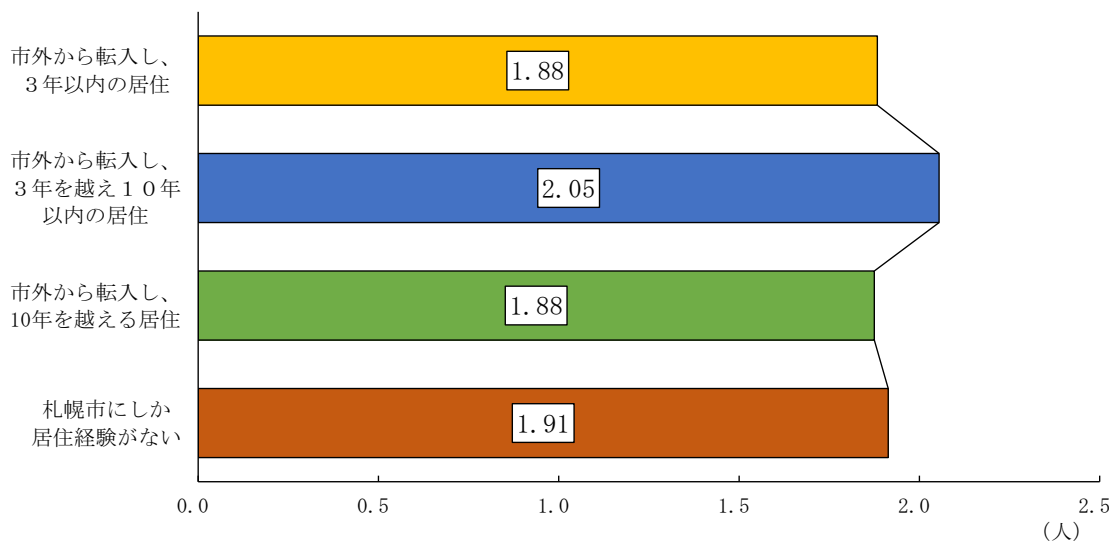


図 2-4-4 札幌市の居住期間からみた予定子ども数（女性：初婚）
※H30 未回答を除く

⑤ 初婚時の年齢の推移

初婚時の年齢は前回調査結果と比較すると、男女どちらも「20～24歳」の割合が増加している。また男性の場合だと「25～29歳」の割合が増加しており、男女別での初婚年齢に関しては平成27年度と比べ早年化がみられる結果となった。

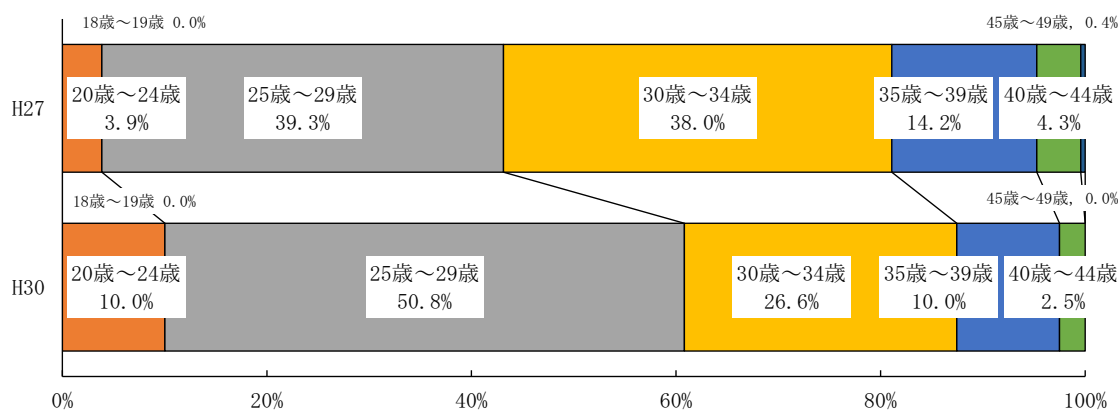


図2-5-1 初婚時の年齢割合（男性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

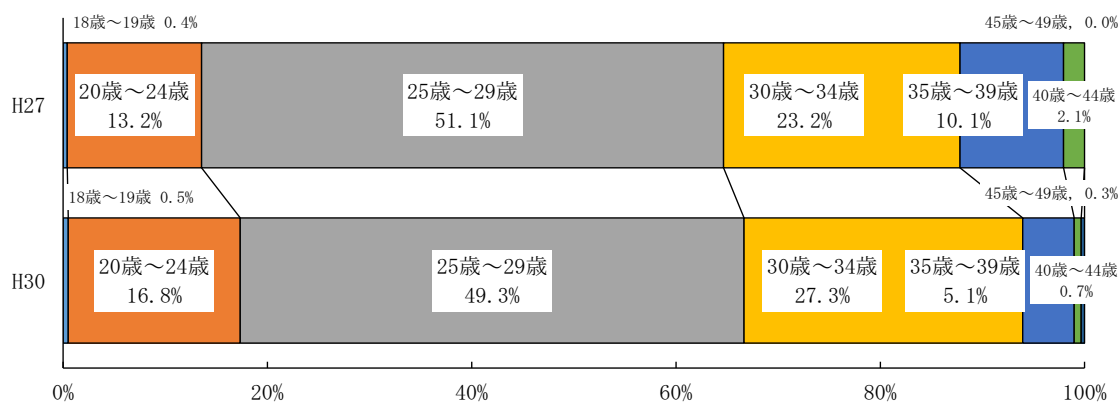


図2-5-2 初婚時の年齢割合（女性：初婚）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

⑥ 子どもが3歳になるまでの間での制度や施設利用推移

男女ともに前回調査結果と比較すると「育児休業制度（妻）」、「自治体が運営する又は許認可を行う各種保育施設・幼稚園・こども園」の回答割合の増加がみられた。また、「どれも利用しなかった」の割合が大幅に減少していることから、全体的に制度や施設の利用状況は増加傾向であると考えられる。

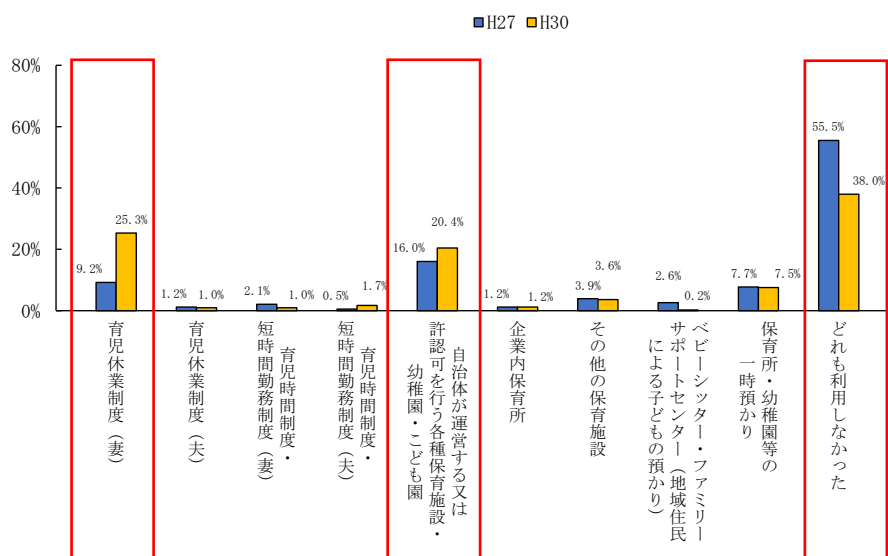


図 2-6-1 子どもが3歳になるまでの間での制度や施設利用割合（男性）
（前回調査比較）※H30 未回答を除く

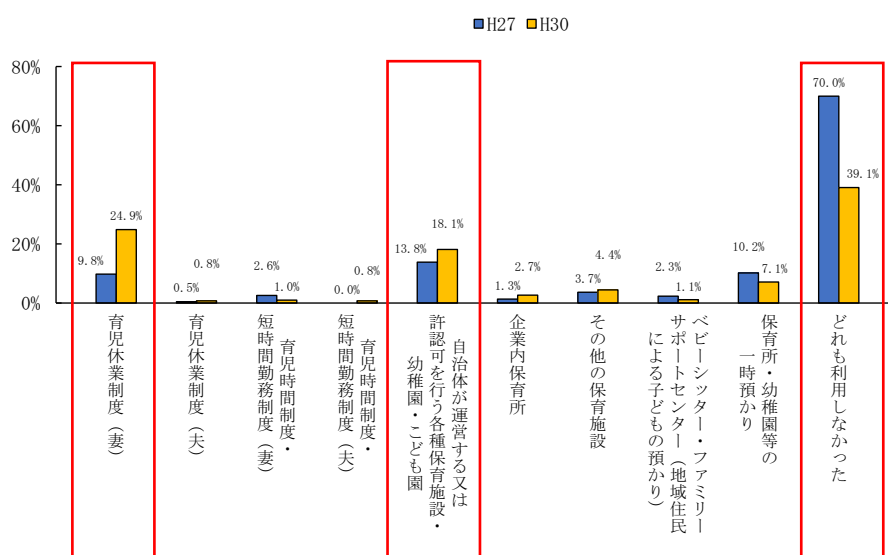


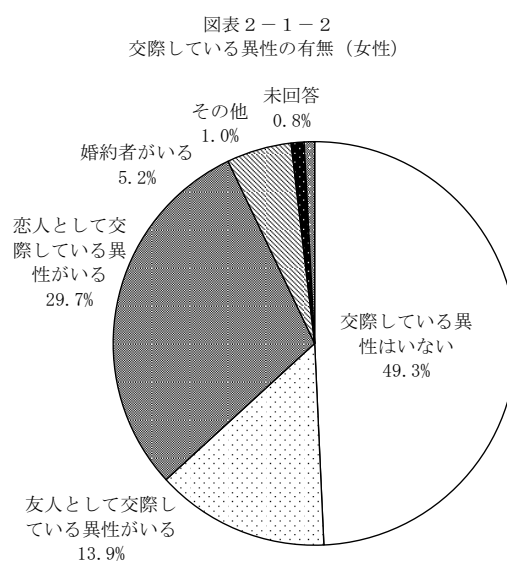
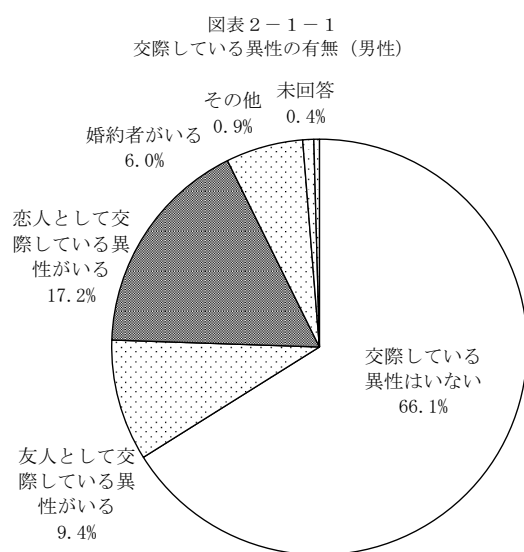
図 2-6-2 子どもが3歳になるまでの間での制度や施設利用割合（女性）
※H30 未回答を除く

2 アンケート調査結果

(1) 独身者アンケート結果

1) 交際している異性の有無

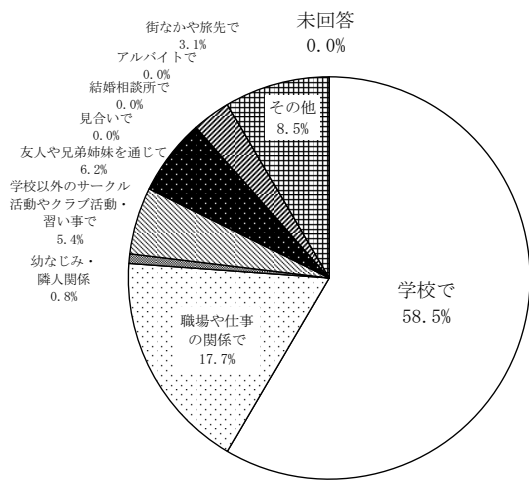
「現在、交際している異性はいない」が全体で最も高く、男性が66.1%、女性が49.3%であった。次いで、女性では「恋人として交際している異性がいる」が29.7%であるのに対し、男性では17.2%であった。



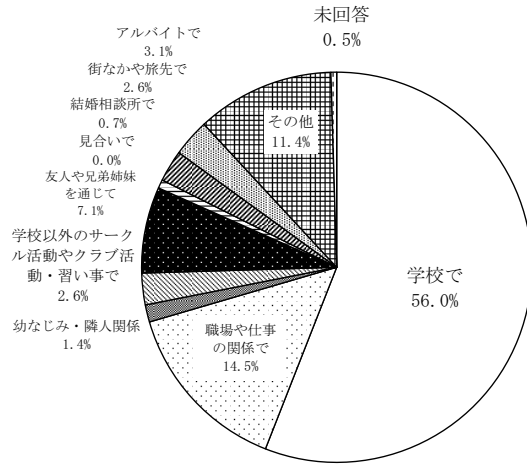
2) 交際相手と知り合ったきっかけ

現在の交際相手と知り合ったきっかけについては、男女とも「学校で」が最も高く、男性が58.5%、女性が56.0%であった。次いで「職場や仕事の関係で」が高く、男性が17.7%、女性が14.5%であった。

図表 2-1-3
交際相手と知り合ったきっかけ（男性）



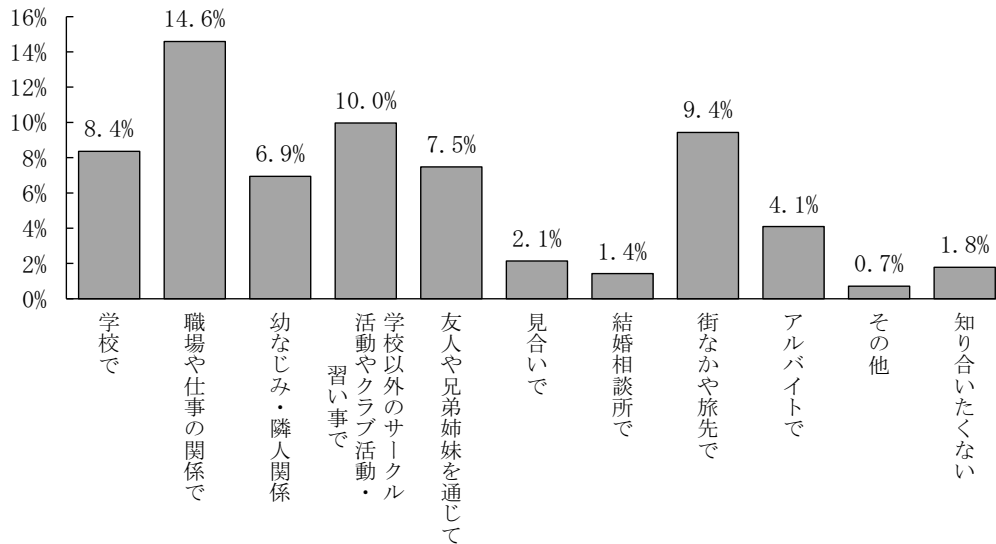
図表 2-1-4
交際相手と知り合ったきっかけ（女性）



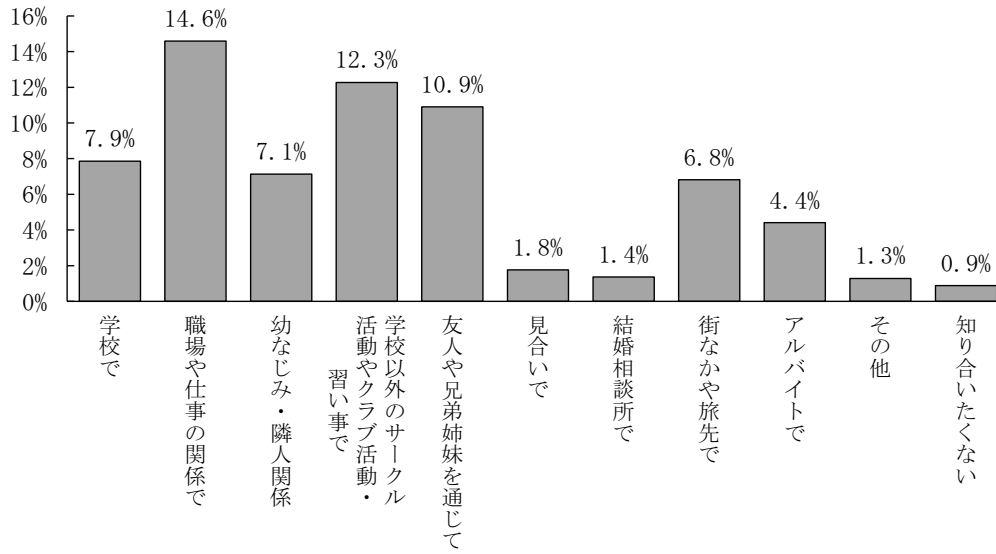
3) どんな場面で異性と知り合いたいのか

どんな場面で異性と知り合いたいのかは、女性の回答割合が多く、男性の約2倍であった。また「職場や仕事の関係で」が最も高く、男女ともに14.6%であった。

図表 2-1-5
どんな場面で異性と知り合いたいのか（男性：複数回答）



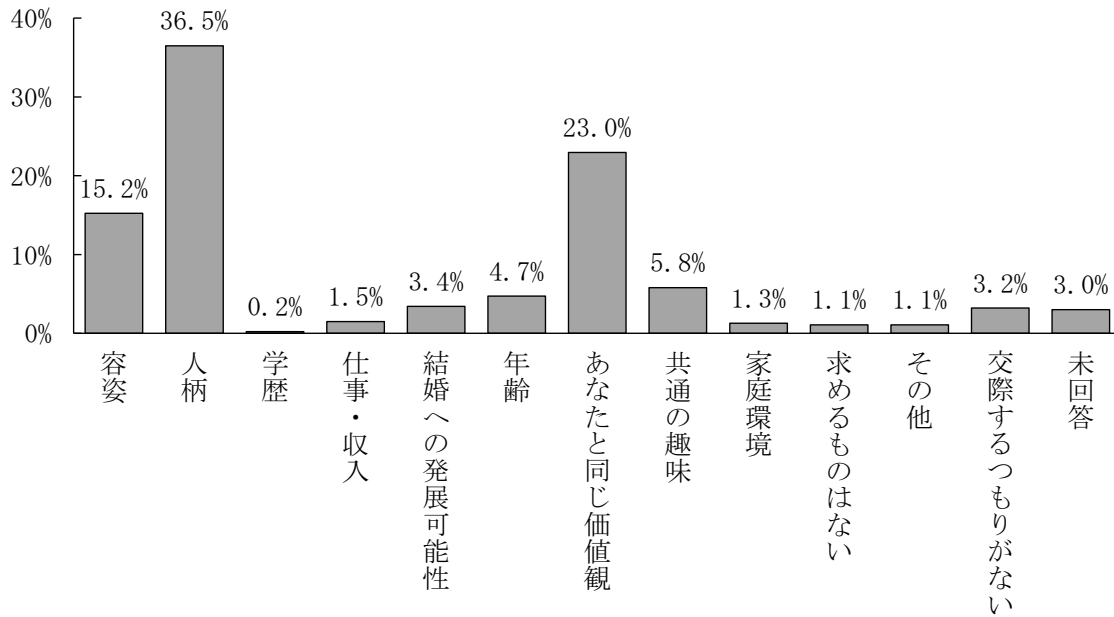
図表 2-1-6
 どんな場面で異性と知り合いたいか（女性：複数回答）



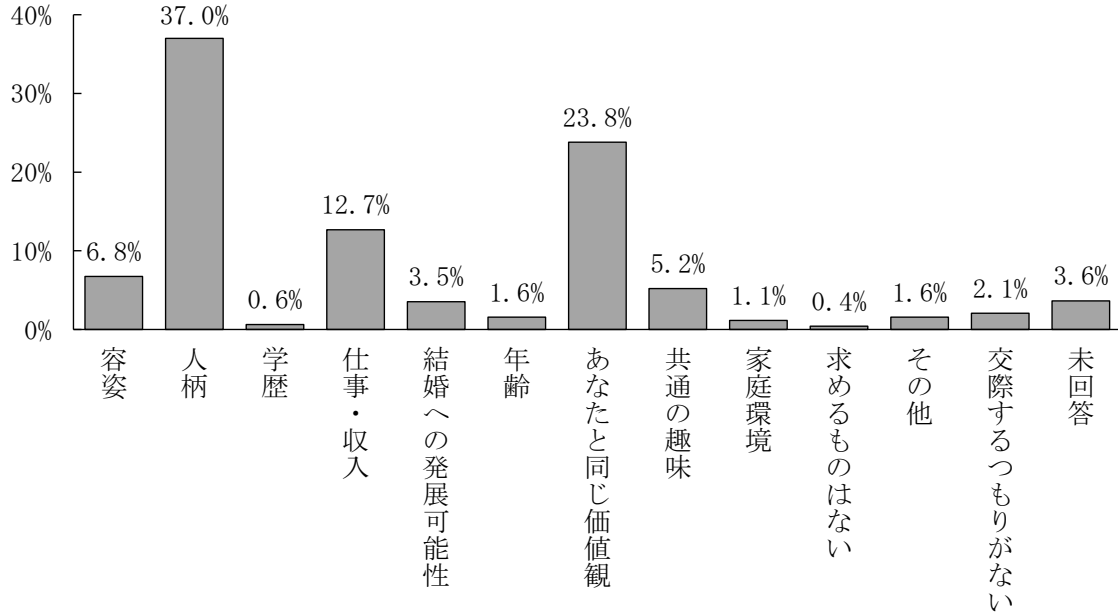
4) 恋人として交際を決める際に相手に求めるもの

男女ともに交際相手に求めるものでは「人柄」が最も高く、男性が 36.5%、女性が 37.0%であった。次いで「あなたと同じ価値観」が高く、それぞれ 23.0%、23.8%となっている。

図表 2-1-7
 恋人として交際を決める際に相手に求めるもの（男性）



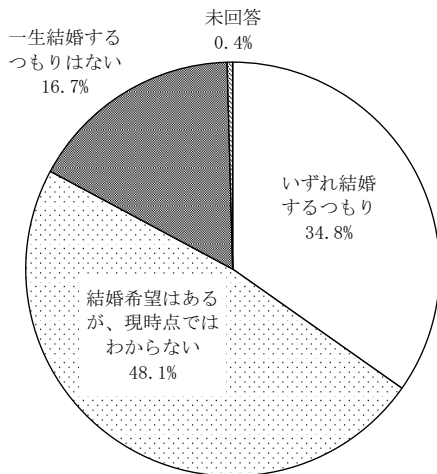
図表 2-1-8
恋人として交際を決める際に相手に求めるもの（女性）



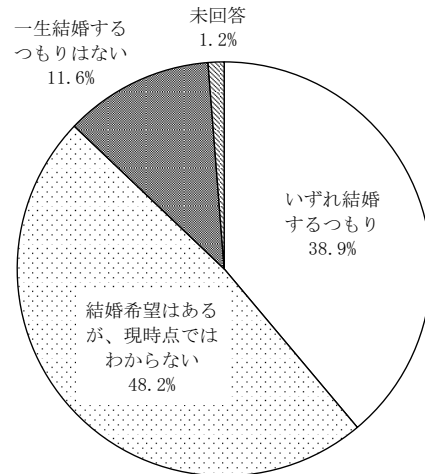
5) 結婚に関する考え方

一生を通じて考えた場合の、結婚に対する考え方については、「結婚希望はあるが、現時点ではわからない」が、男女でもっとも高く、男性が48.1%、女性は48.2%であった。

図表 2-1-9
結婚に関する考え方（男性）



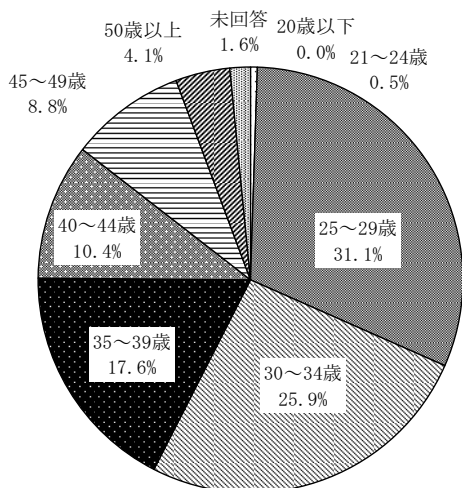
図表 2-1-10
結婚に関する考え方（女性）



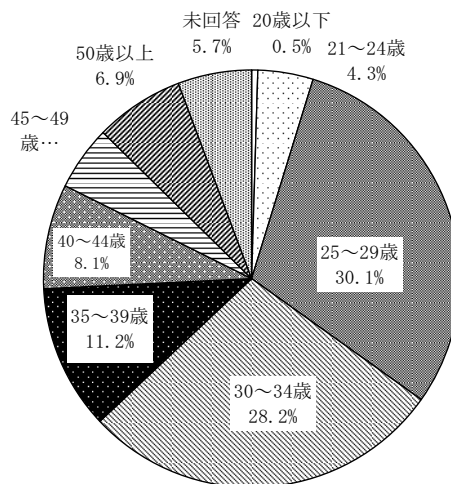
6) 結婚を考える年齢と結婚相手の希望年齢

結婚を考える年齢については、男女で「25～29歳」が高く、男性が25.8%、女性は26.2%で、次いで「30～34歳」だと男性が21.5%、女性は24.5%であった。

図表 2-1-11
結婚を考える年齢（男性）

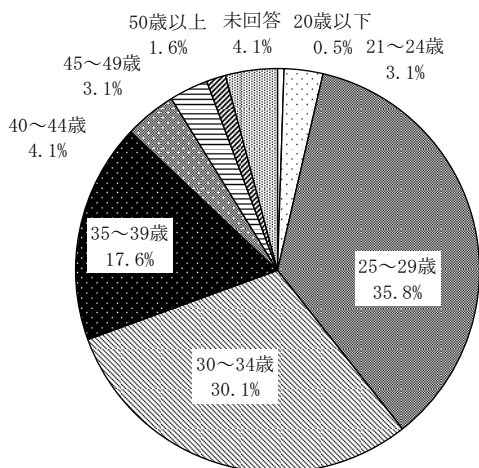


図表 2-1-12
結婚を考える年齢（女性）

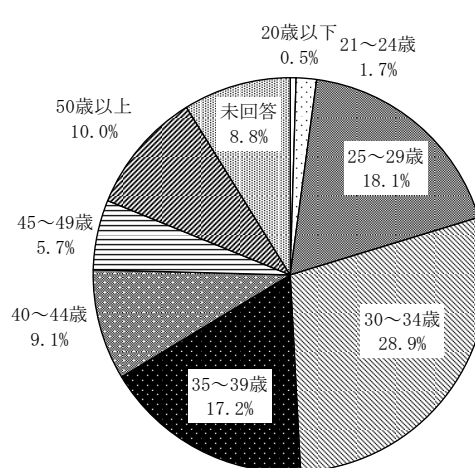


また結婚相手の希望年齢は何歳くらいかについては、男性では「25～29歳」が35.8%、女性は「30～34歳」が高く、28.9%であった。

図表 2-1-13
希望する結婚相手の年齢（男性）



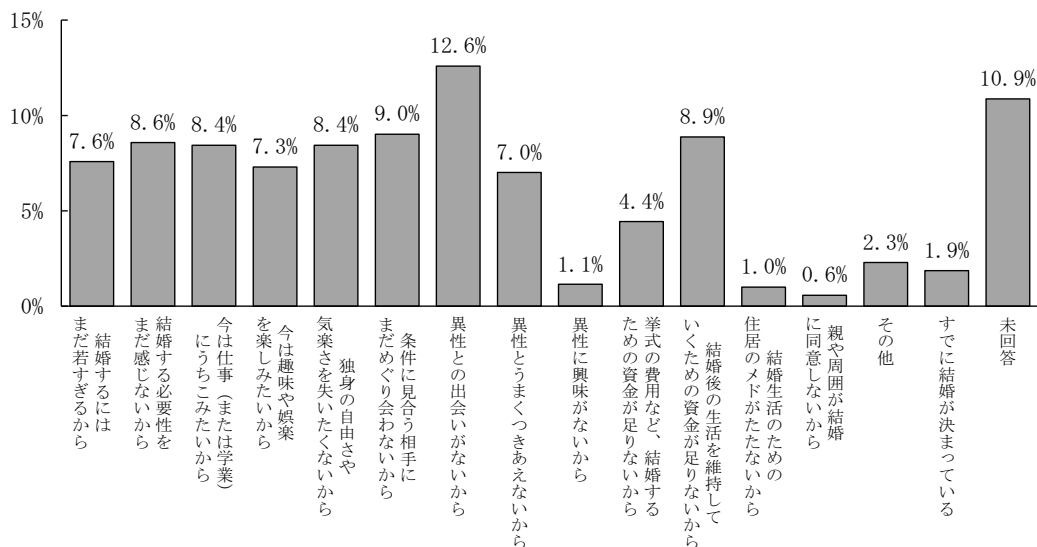
図表 2-1-14
希望する結婚相手の年齢（女性）



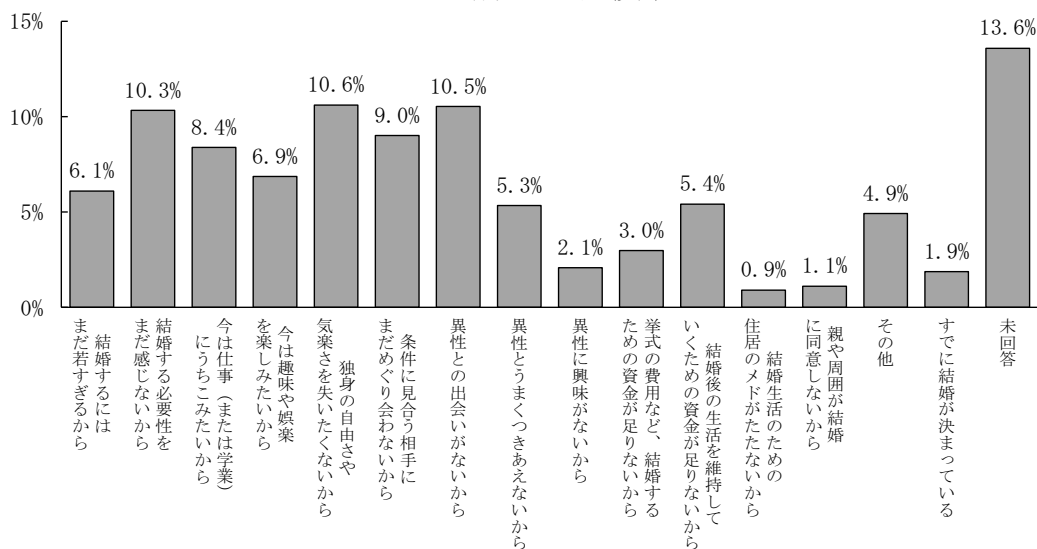
7) 独身でいる理由

男性では「異性との出会いがないから」が最も高く、12.6%であったが、女性は「異性との出会いがないから」の10.5%に対して、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が10.6%、「結婚する必要性をまだ感じないから」が10.3%と、僅差となる割合の項目があった。

図表 2-1-15
独身でいる理由 (男性)



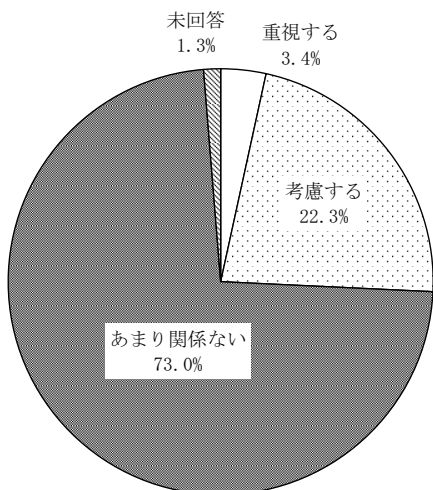
図表 2-1-16
独身でいる理由 (女性)



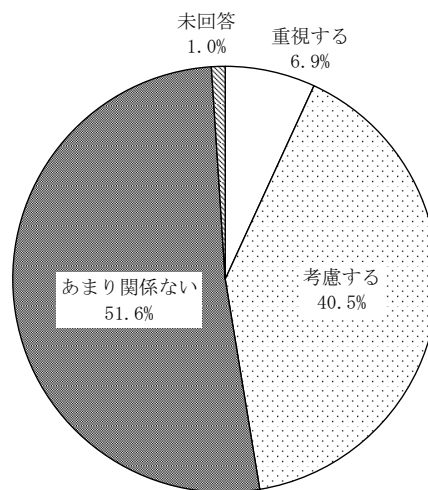
8) 結婚相手を決めるときの重要度

男女ともに「重視する」と回答の割合が高かった項目は「相手の人柄」で、男性 87.1%、女性で 93.6%あった。次いで「自分の仕事に対する理解や協力」、「家事・育児に対する能力や姿勢」の回答の割合が高かった。

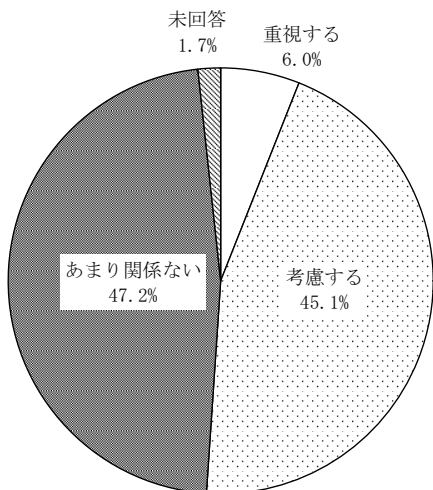
図表 2-1-17
結婚相手の学歴 (男性)



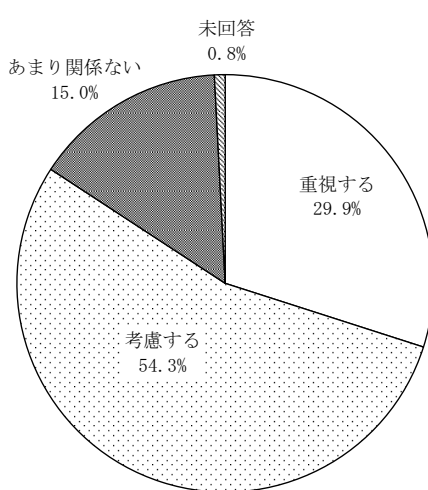
図表 2-1-18
結婚相手の学歴 (女性)



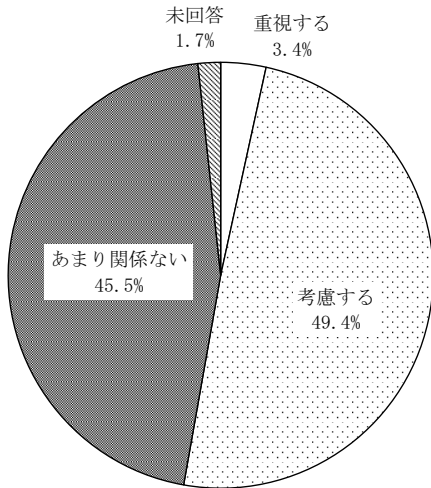
図表 2-1-19
結婚相手の職業 (男性)



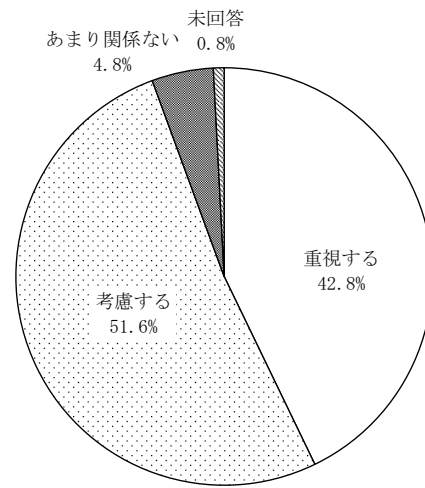
図表 2-1-20
結婚相手の職業 (女性)



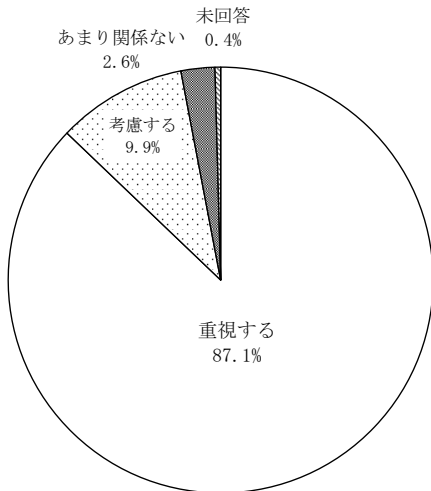
図表 2-1-21
結婚相手の収入などの経済力（男性）



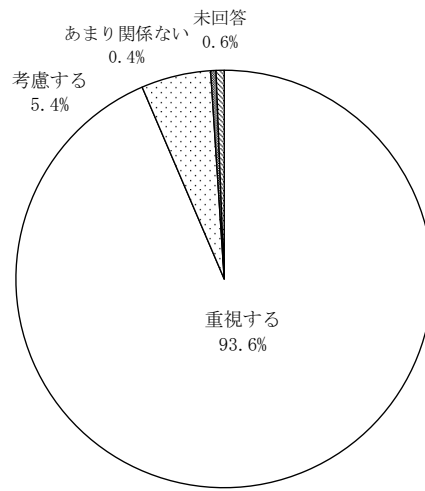
図表 2-1-22
結婚相手の収入などの経済力（女性）



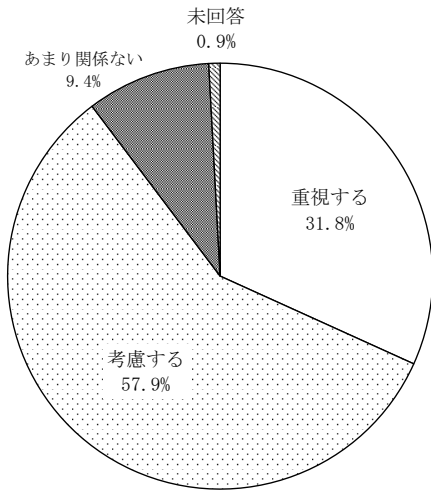
図表 2-1-23
結婚相手の人柄（男性）



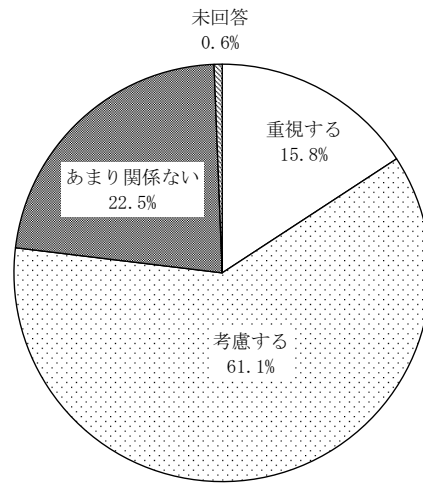
図表 2-1-24
結婚相手の人柄（女性）



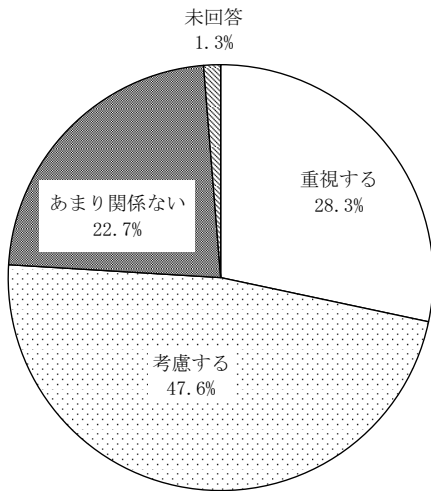
図表 2-1-25
結婚相手の容姿（男性）



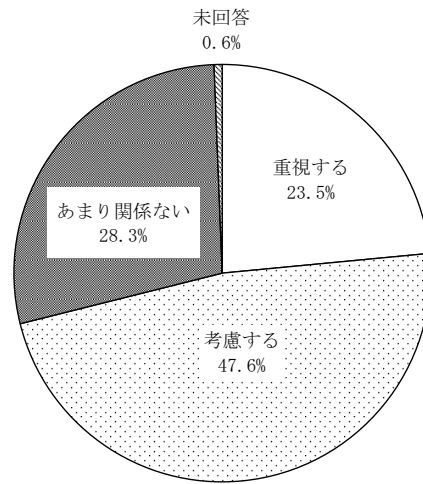
図表 2-1-26
結婚相手の容姿（女性）



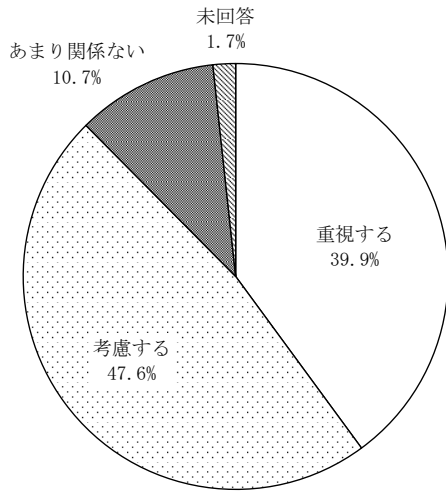
図表 2-1-27
共通の趣味（男性）



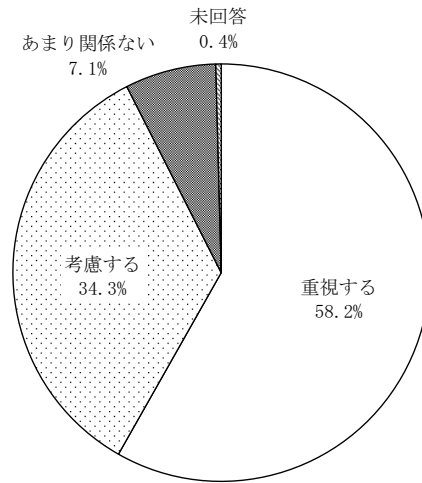
図表 2-1-28
共通の趣味（女性）



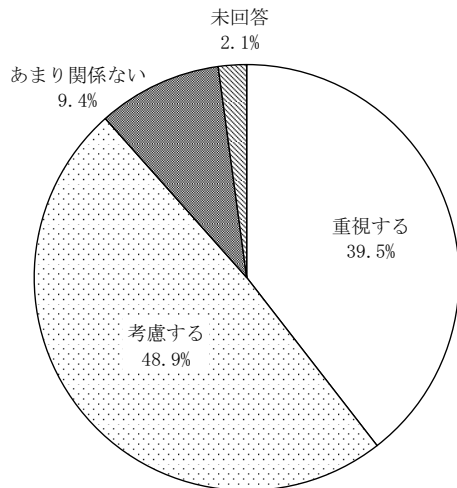
図表 2-1-29
自分の仕事に対する理解や協力（男性）



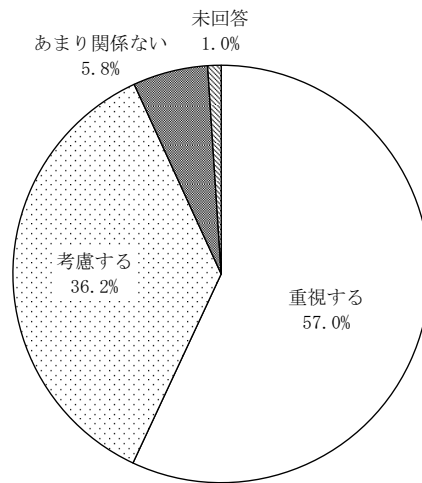
図表 2-1-30
自分の仕事に対する理解や協力（女性）



図表 2-1-31
家事・育児に対する能力や姿勢（男性）



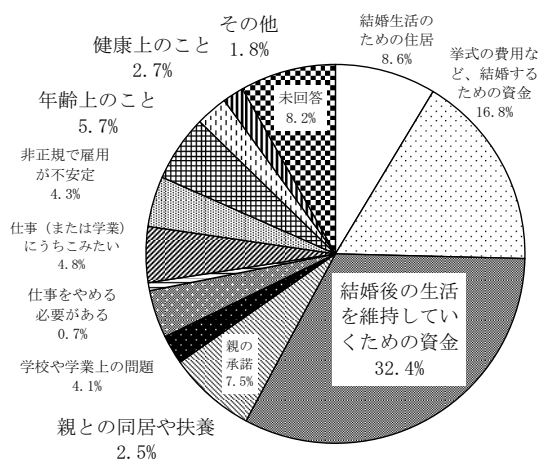
図表 2-1-32
家事・育児に対する能力や姿勢（女性）



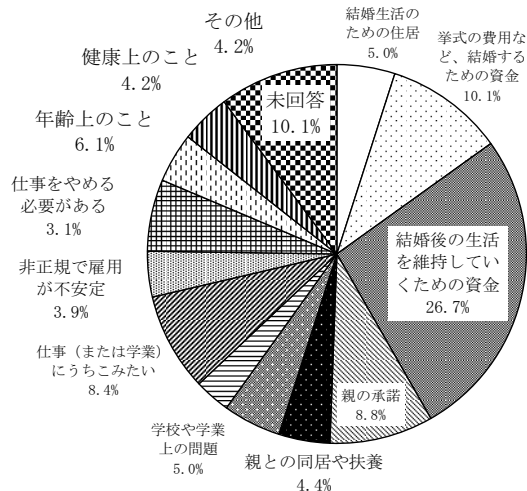
9) 年内に結婚する場合での障害の有無

男女ともに「結婚後の生活を維持していくための資金」の割合が高く、全体で見ると男性32.4%、女性で26.7%あった。また、「挙式の費用など、結婚するための資金」が次に高かった。

図表 2-1-33
年内に結婚する場合の障害 (男性)

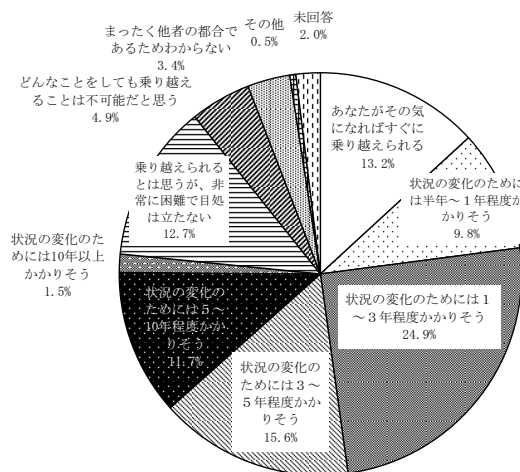


図表 2-1-34
年内に結婚する場合の障害 (女性)

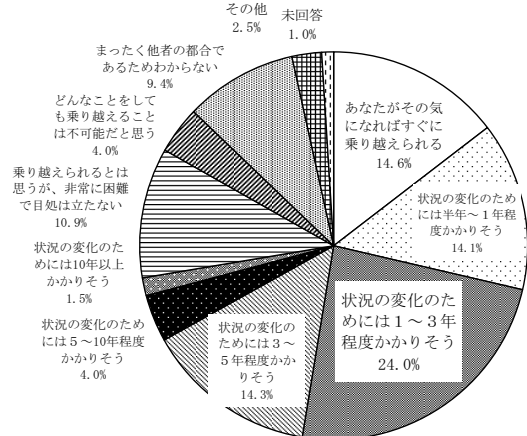


結婚する場合の障害に対する程度については、男女ともに「状況の変化のためには1～3年程度かかりそう」の割合が高く、男性24.4%、女性24.0%であった。

図表 2-1-35
年内に結婚する場合の障害の程度 (男性)

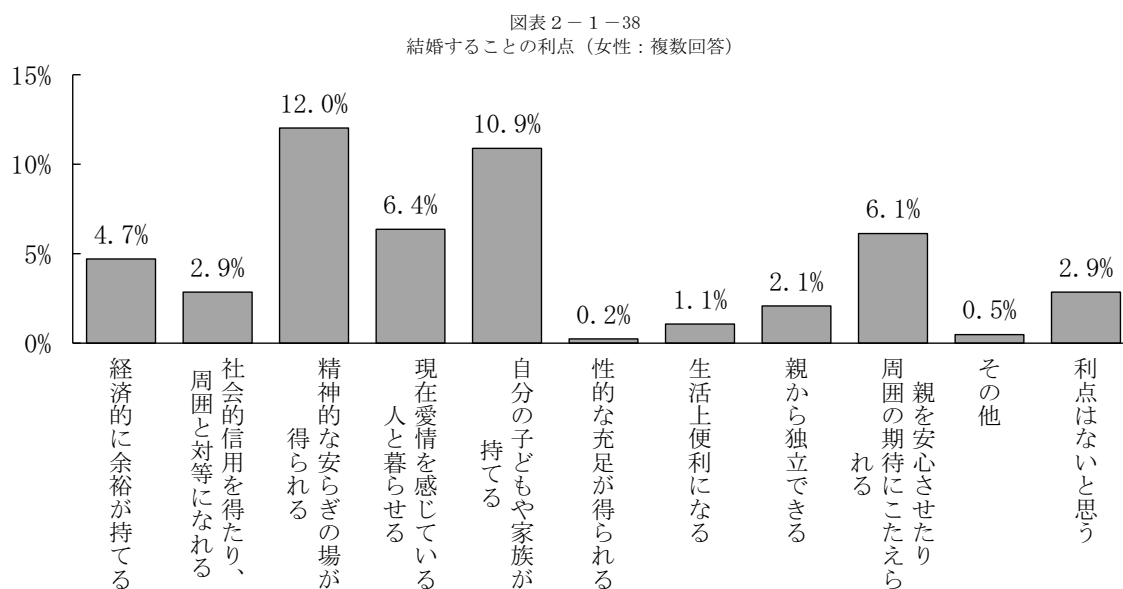
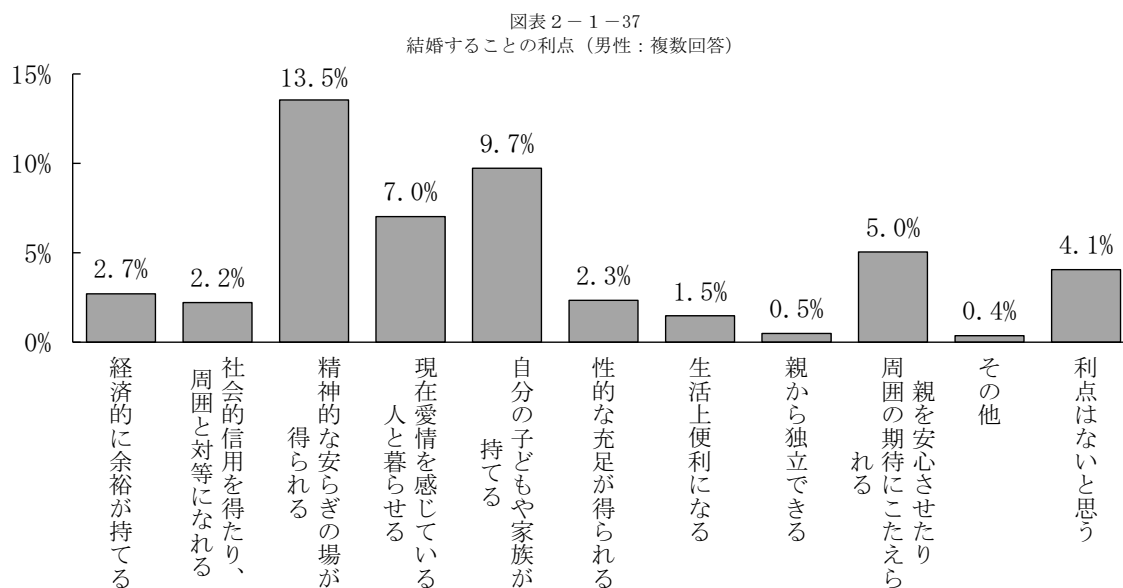


図表 2-1-36
年内に結婚する場合の障害の程度 (女性)



10) 結婚することの利点

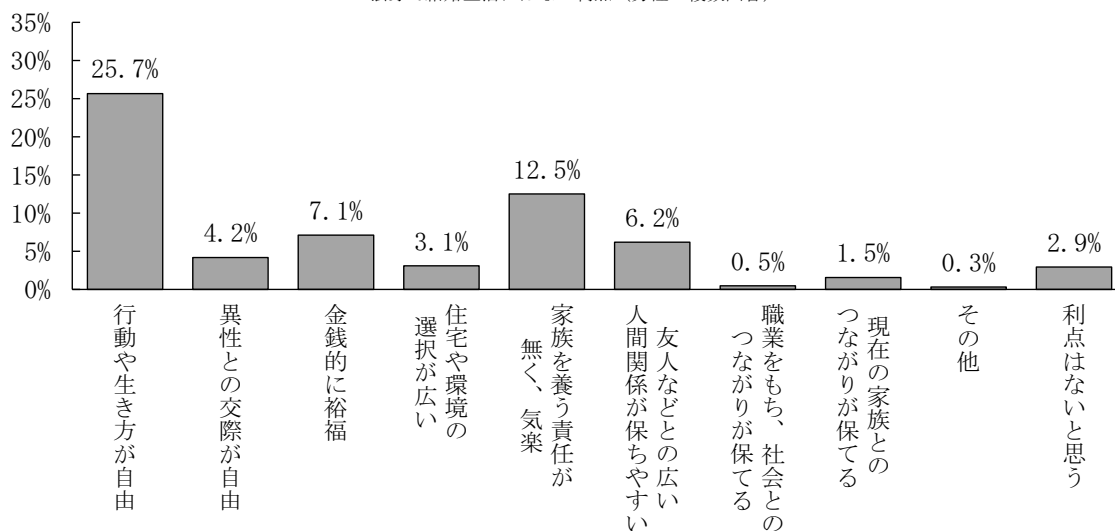
結婚することの利点については男女ともに「精神的な安らぎの場が得られる」の割合が高く、男性 13.5%、女性 12.0%であった。次いで「自分の子どもや家族が持てる」が高かった。



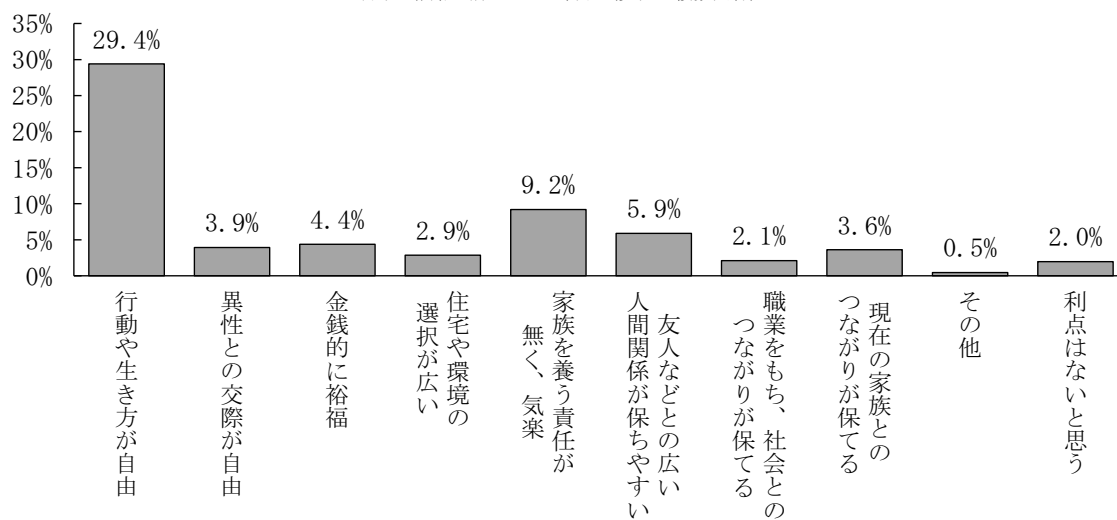
11) 独身生活での利点

独身生活での利点については男女ともに「行動や生き方が自由」の割合が高く、男性 25.7%、女性 29.4%であった。次いで「家族を養う責任が無く、気楽」が高かった。

図表 2-1-39
独身で結婚生活にはない利点（男性：複数回答）



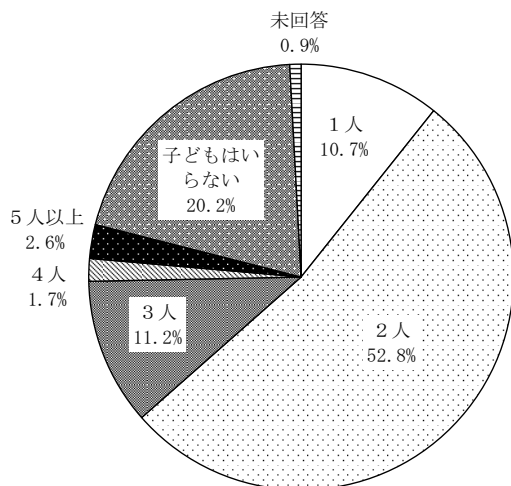
図表 2-1-40
独身で結婚生活にはない利点（女性：複数回答）



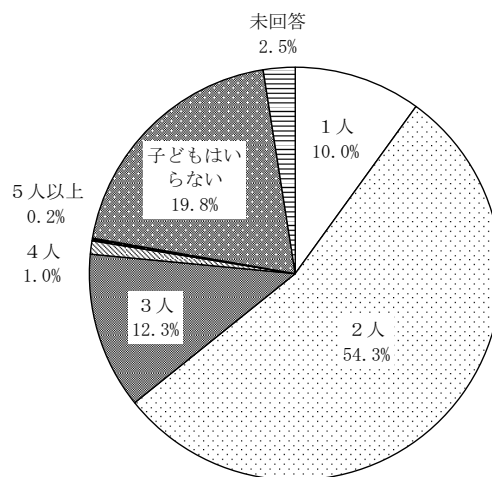
12) 希望する子どもの数

希望する子どもの数については男女ともに「2人」の割合が高く、男性 52.8%、女性 54.3%であった。反対に「子どもはいらない」の回答割合が男女ともに次いで高かった。

図表 2-1-41
希望する子どもの数 (男性)



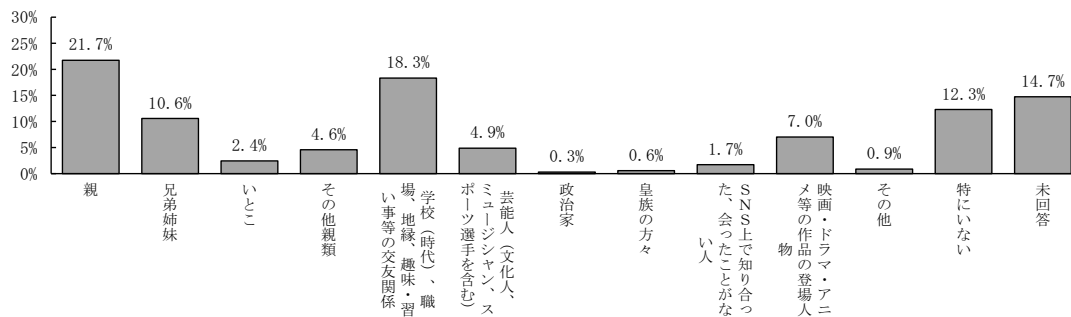
図表 2-1-42
希望する子どもの数 (女性)



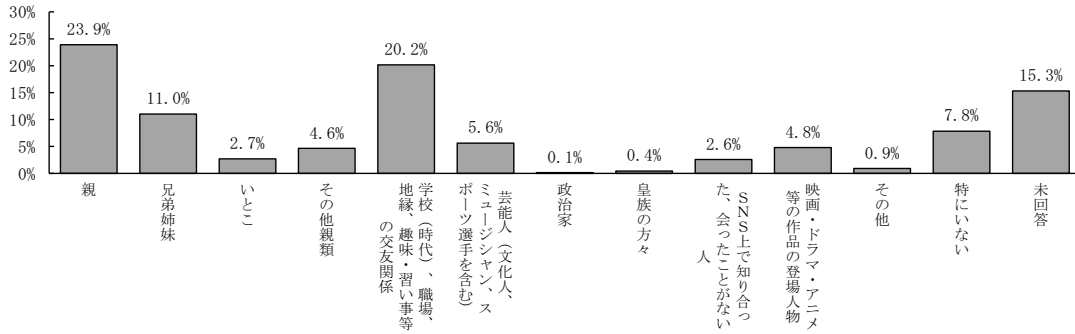
13) 結婚観に影響する存在、結婚観に影響する情報の入手方法

結婚観に影響する存在 (人) について全体で見ると男女ともに「親」が最も高く、次いで「学校 (時代)、職場、地縁、趣味・習い事等の交友関係」が高かった。

図表 2-1-43
結婚観に影響を与える存在 (人) (男性)

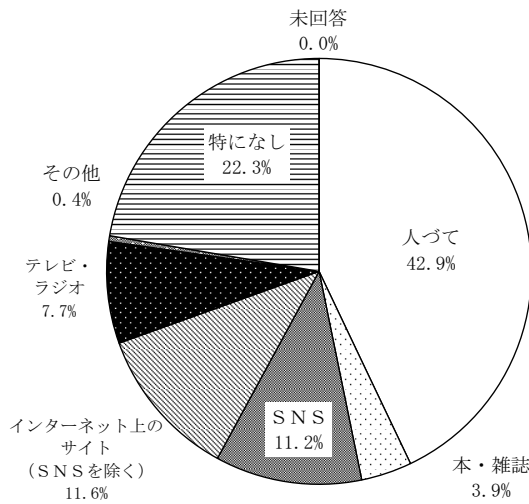


図表 2-1-44
結婚観に影響を与える存在（人）（女性）

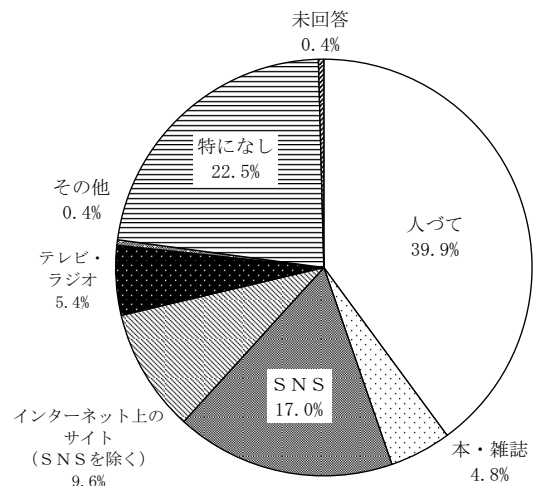


また結婚観に影響を与える情報の、最も身近な入手方法については男女ともに「人づて」の割合が高く、男性 42.9%、女性 39.9%であった。また、人から直接情報を得る以外では「テレビ・ラジオ」や「本・雑誌」より「インターネット上のサイト」、「SNS」を用いた情報の入手が多い傾向であった。

図表 2-1-45
結婚観に影響を与える情報の、最も身近な入手方法（男性）



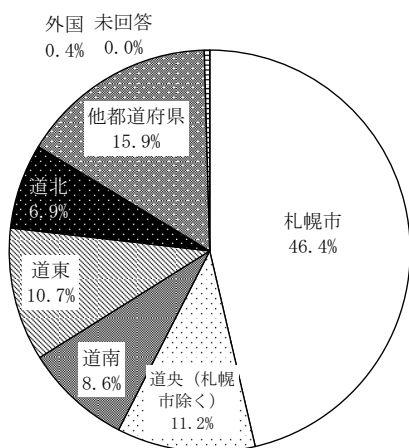
図表 2-1-46
結婚観に影響を与える情報の、最も身近な入手方法（女性）



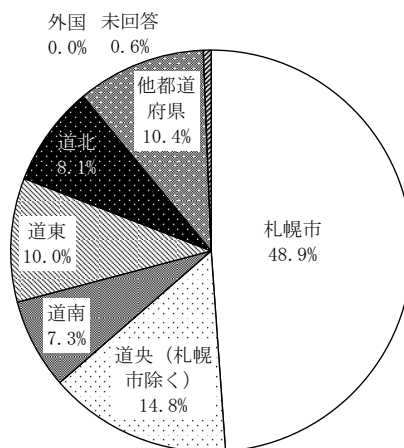
14) あなたの出身地

出生地は、「札幌市」の割合が男女ともに最も高く、それぞれ 46.4%、48.9%となっていた。

図表 2-1-47
出身地 (男性)



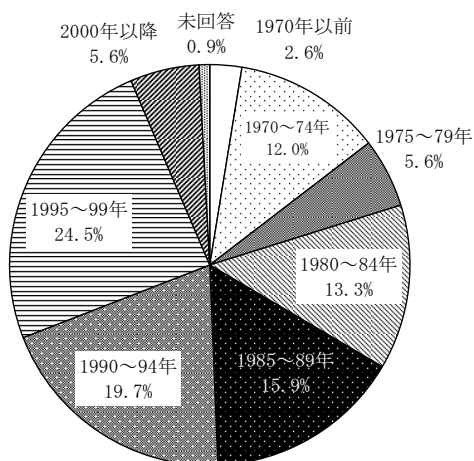
図表 2-1-48
出身地 (女性)



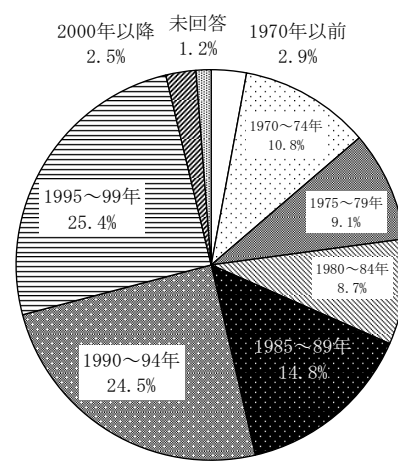
15) あなたの出生年

出生年は「1995～99年」の割合が男女ともに最も高く、それぞれ 24.5%、25.4%となっていた。

図表 2-1-49
出生年 (男性)

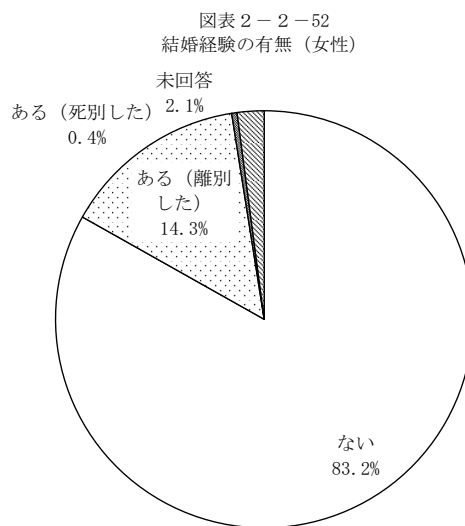
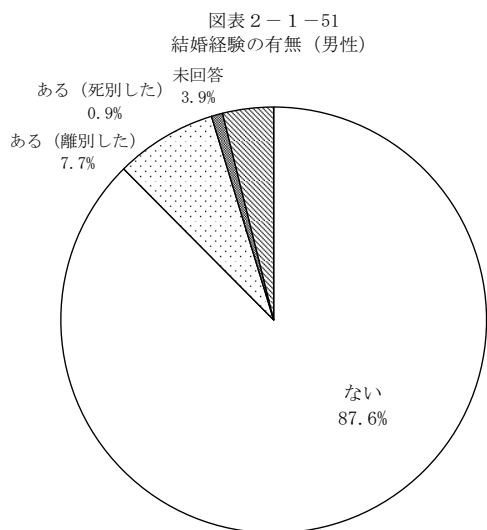


図表 2-1-50
出生年 (女性)



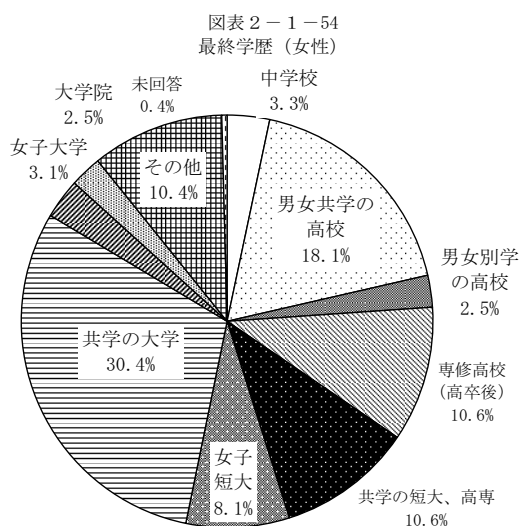
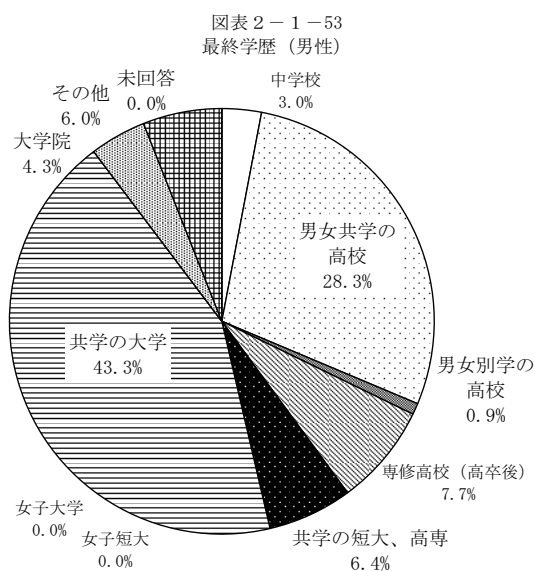
16) 結婚経験の有無

これまでの結婚経験の有無については、「ない」が男性では87.6%、女性では83.2%であった。



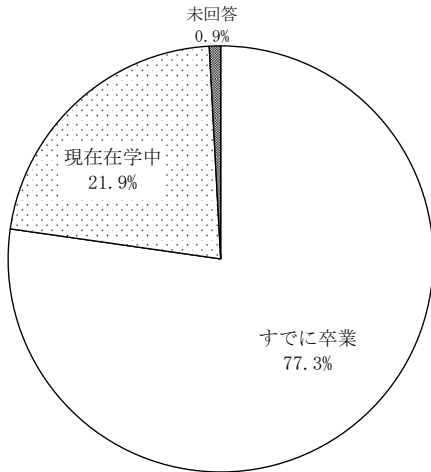
17) 最終学歴

最終学歴については、「共学の大学」が男女ともに最も高く、男性は43.3%、女性は30.4%であり、次いで「男女共学の高校」が男性28.3%、女性は18.1%であった。

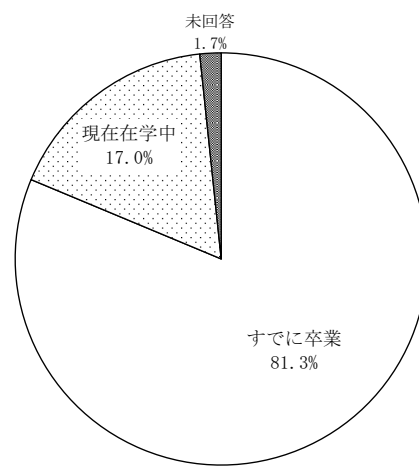


また、その学校をすでに卒業したかどうかについては、男性の77.3%、女性の81.3%が「すでに卒業」であった。

図表 2-1-55
最終学歴学校の卒業の状況 (男性)



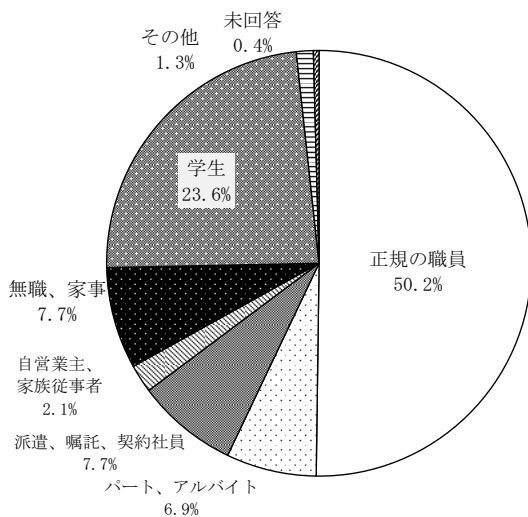
図表 2-1-56
最終学歴学校の卒業の状況 (女性)



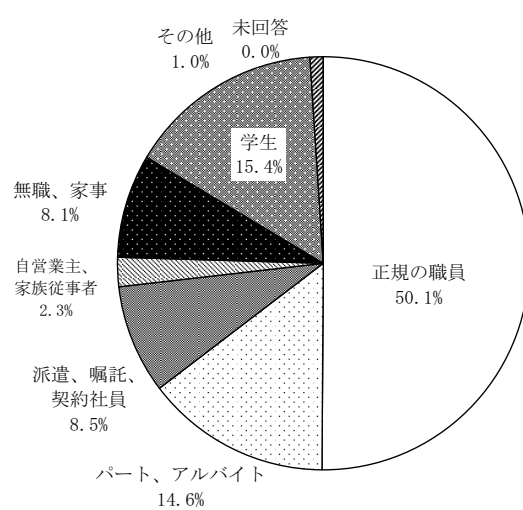
18) 現在の勤務状況

現在の勤務状況については、男女ともに「正規の職員」の割合が最も高く、男性が50.2%、「女性」が50.1%であった。また、女性では「パート・アルバイト」の割合が男性の6.9%と比べて高く、14.6%であった。

図表 2-1-57
現在の勤務状況 (男性)

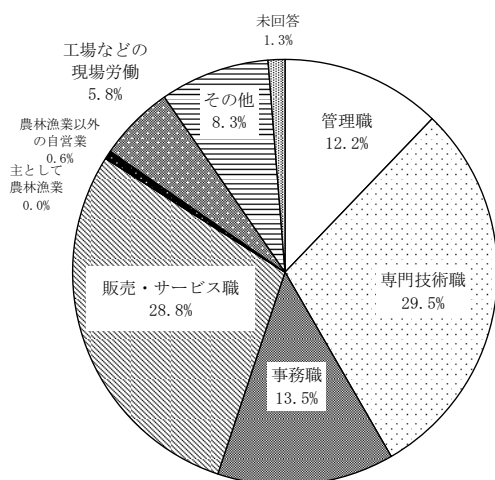


図表 2-1-58
現在の勤務状況 (女性)

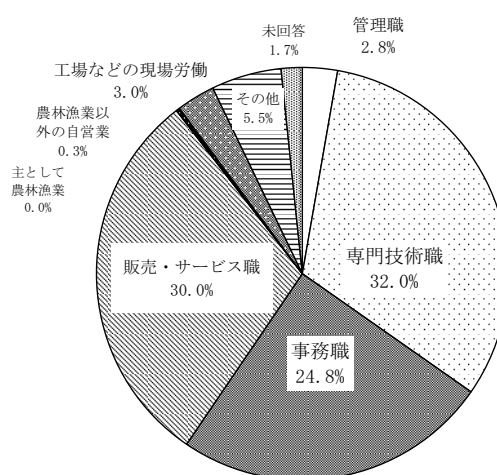


現在働いている人の職種については、男女ともに「専門技術職」、次いで「販売・サービス業」の割合が高かった。また、女性の場合は「事務職」の割合も高く、男性と比べ11.3%高かった。

図表 2-1-59
職種 (男性)

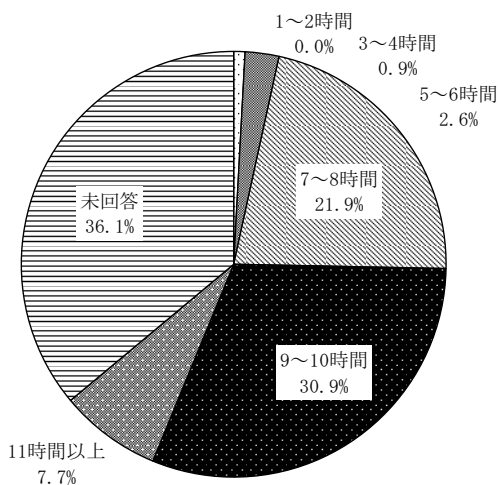


図表 2-1-60
職種 (女性)

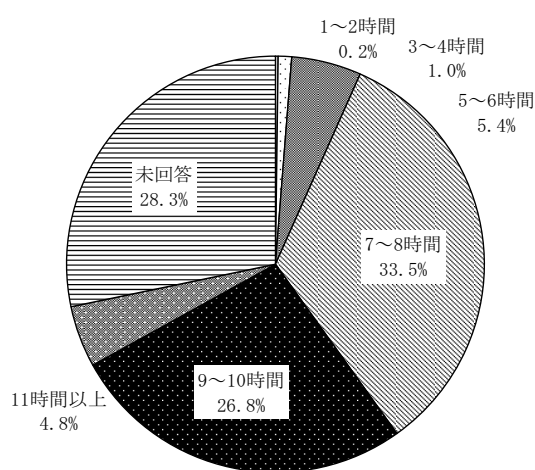


また、現在働いている人の1日の労働時間については、男性が「9～10時間」の割合が高く、30.9%。女性は「7～8時間」が最も高く、33.5%であった。

図表 2-1-61
1日の平均労働時間 (残業含む) (男性)



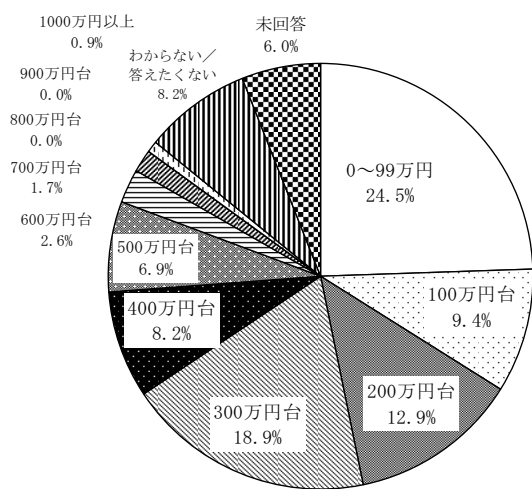
図表 2-1-62
1日の平均労働時間 (残業含む) (女性)



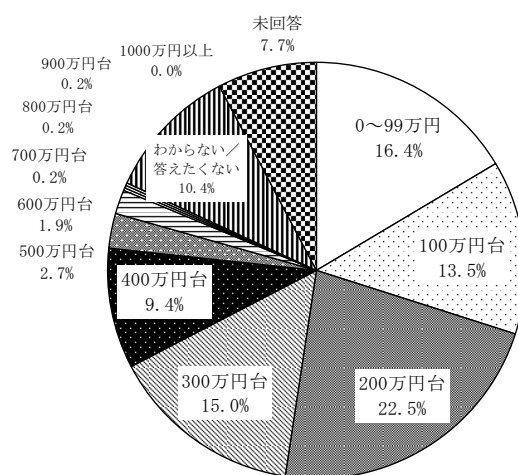
19) 年収

平成 29 年度の個人年収については、男性では「0～99 万円」がもっとも多く 24.5%、次いで「300 万円台」が 18.9%、「200 万円台」が 12.9%となっていた。一方、女性では、「200 万円台」がもっとも多く 22.5%、次いで「0～99 万円」が 16.4%、「300 万円台」が 15.0%であった。

図表 2-1-63
平成 29 年度の年収（男性）



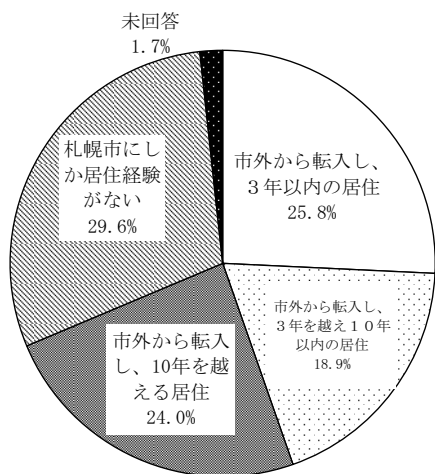
図表 2-1-64
平成 29 年度の年収（女性）



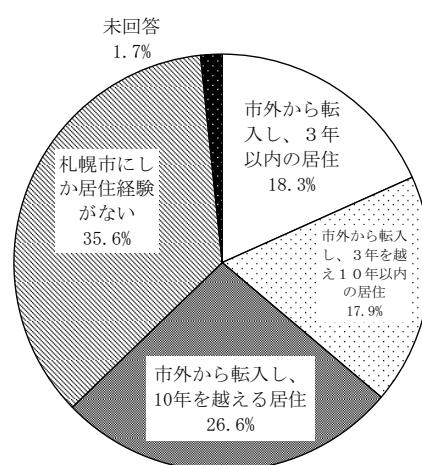
20) 札幌市での居住期間

現在の札幌市での居住期間については、男女ともに「札幌市にしか居住経験がない」の割合が最も高く、男性が 29.6%、女性は 35.6%であった。

図表 2-1-65
現在の札幌市での居住の期間（男性）



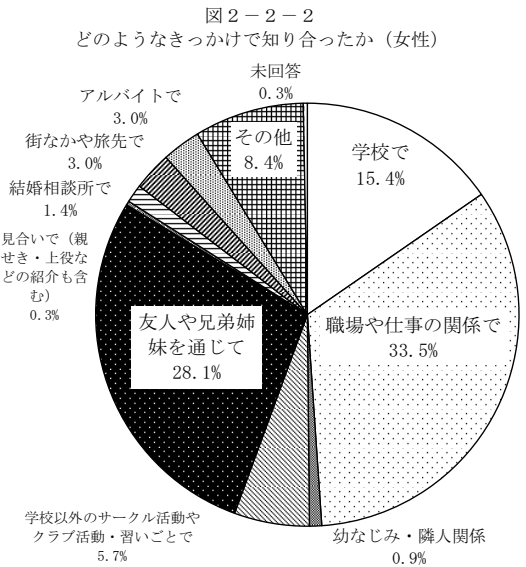
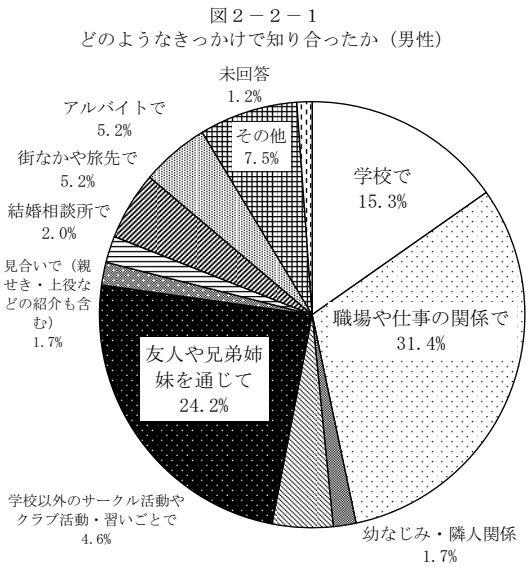
図表 2-1-66
現在の札幌市での居住の期間（女性）



(2) 有配偶者アンケート結果

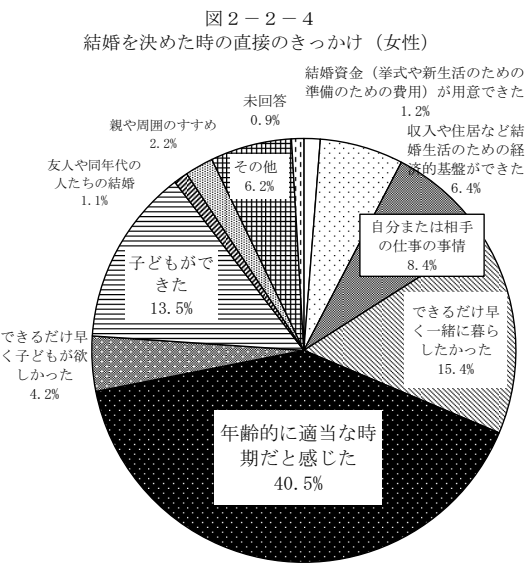
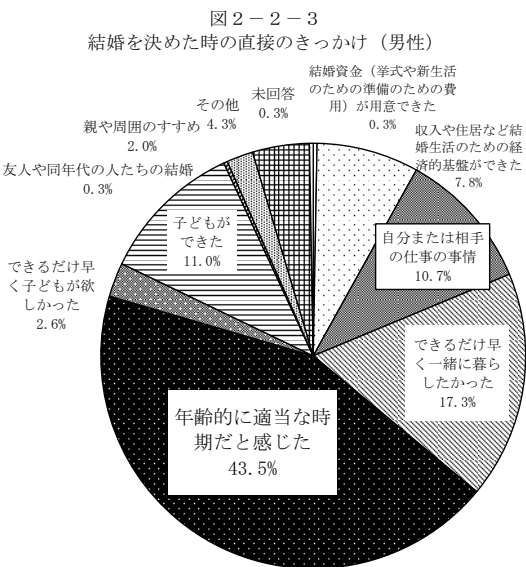
1) 結婚相手と知り合ったきっかけ

夫婦がどのようなきっかけで知り合ったかについては、男女ともに「職場や仕事の関係で」の割合が最も高く、それぞれ31.4%、33.5%、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」がそれぞれ24.2%、28.1%となっていた。



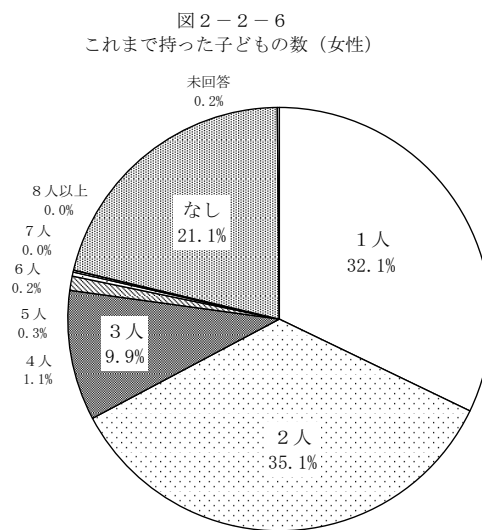
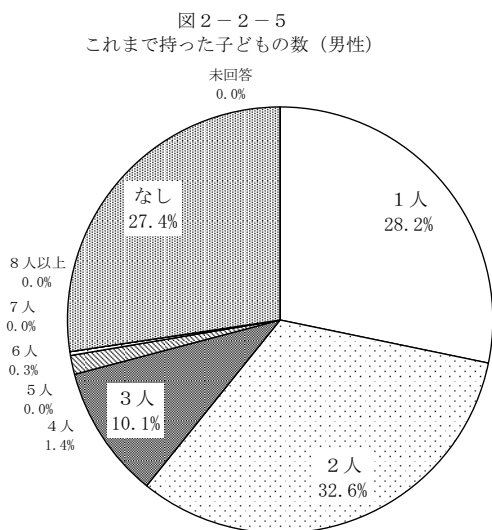
2) 結婚を決めたきっかけ

最終的に結婚を決めたきっかけは、男女ともに「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合が最も高く、それぞれ43.5%、40.5%であった。



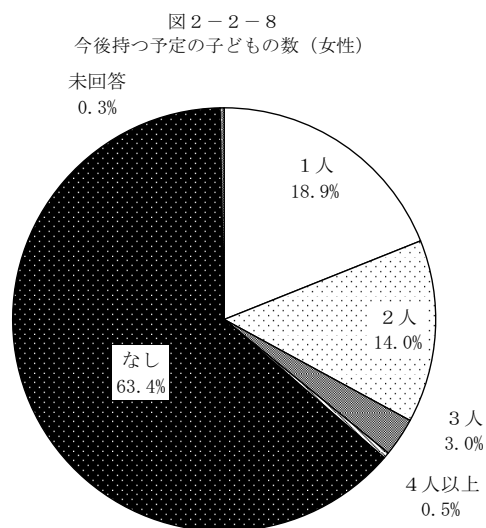
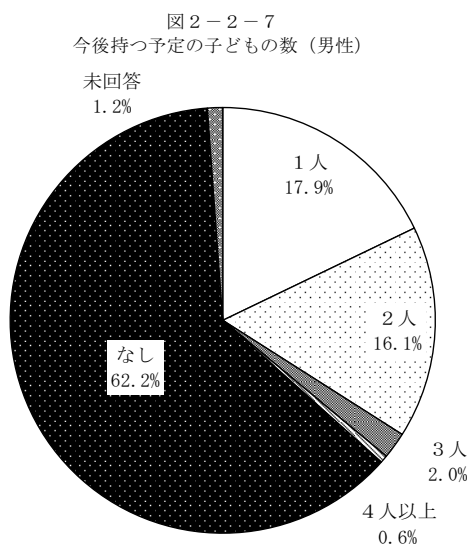
3) これまで持った子どもの数

これまで持った子どもの数については、男女ともに「2人」の割合が最も高く、それぞれ32.6%、35.1%であった。4人以上に関しては全体の1割も満たない程度であった。



4) 今後持つ予定の子どもの数

予定の子ども数については、男女ともに「なし」が最も高い結果であるが、予定する子どもがありの場合で見ると「1人」の割合が高く、それぞれ17.9%、18.9%となっていた。



5) 最終的な子どもの数

最終的な子どもの数については、男女ともに「2人」の割合が最も高く、それぞれ48.7%、50.2%となっていた。次いで「1人」、「3人」が高く、4人以上については「なし」よりも低い傾向が見られた。

図2-2-9
最終的な子どもの数（男性）

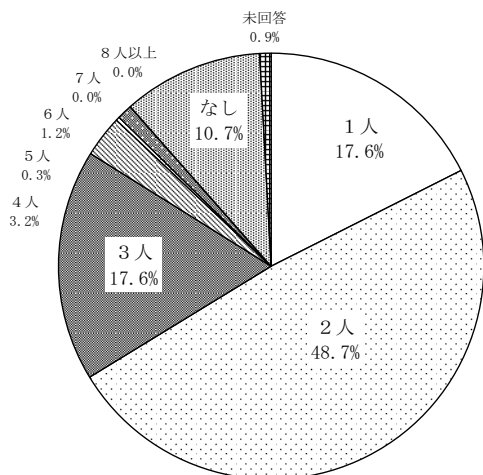
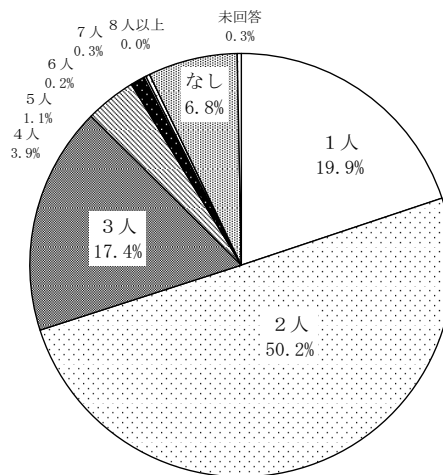


図2-2-10
最終的な子どもの数（女性）



6) 理想的な子どもの数

理想子ども数については、男女ともに「2人」の割合が最も高く、それぞれ52.7%、56.5%となっていた。また、理想とする子どもの数では4人以上の回答割合は最終的な子どもの数と変わらず低い傾向にある。

図2-2-11
理想子ども数（男性）

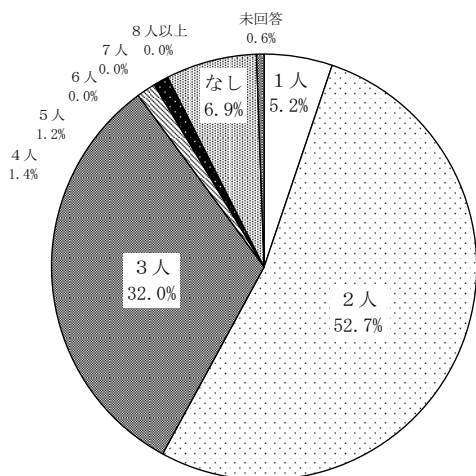
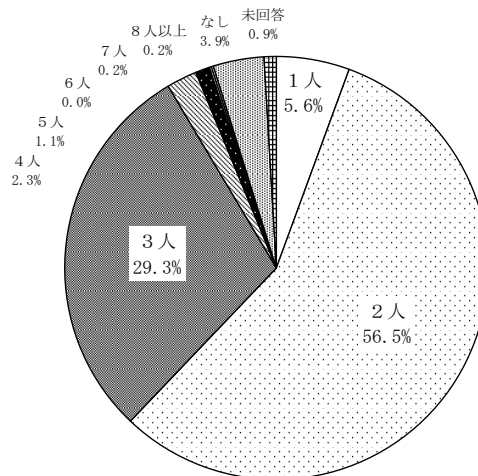
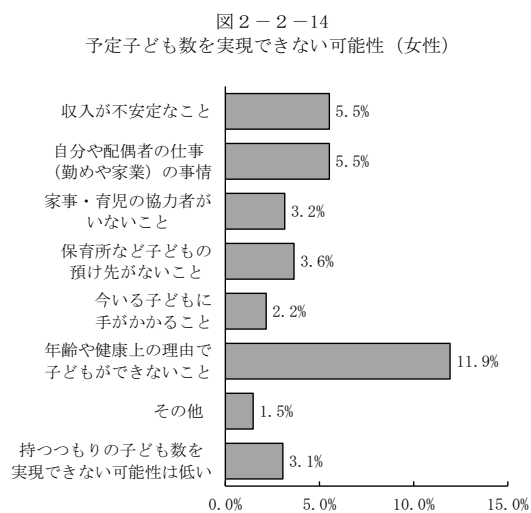
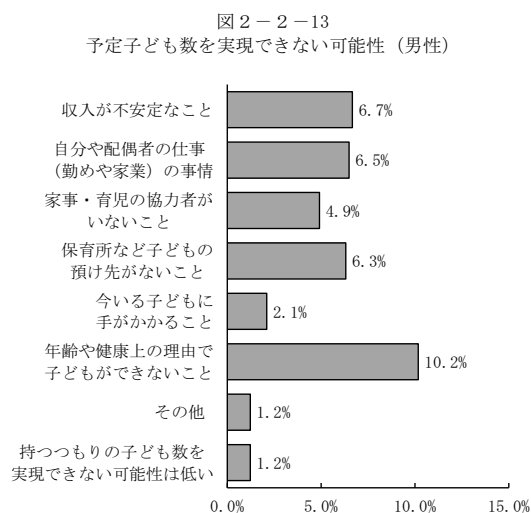


図2-2-12
理想子ども数（女性）



7) 予定している子どもの数が実現できない原因

今後持つつもりの子どもの数が1人以上と回答した人（問4）に、予定子ども数を持つことができないことがあるとした場合、どのような原因があるかを聞いたところ、男女ともに「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」の割合が最も高く、男性10.2%、女性11.9%となっていた。次いで「収入が不安定なこと」がそれぞれ6.7%、5.5%であった。



8) 理想の子どもの数が実現できない原因

最終的に持つつもりの子どもの数（問5）が理想子ども数（問6）よりも少ない人数で回答した人に、理想より予定する子どもの数が少ないのはなぜかを聞いたところ、男女ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が高く、次いで「収入が少ないまたは収入が不安定」が高い結果となった。

図2-2-15
理想子ども数を実現できない可能性（男性）

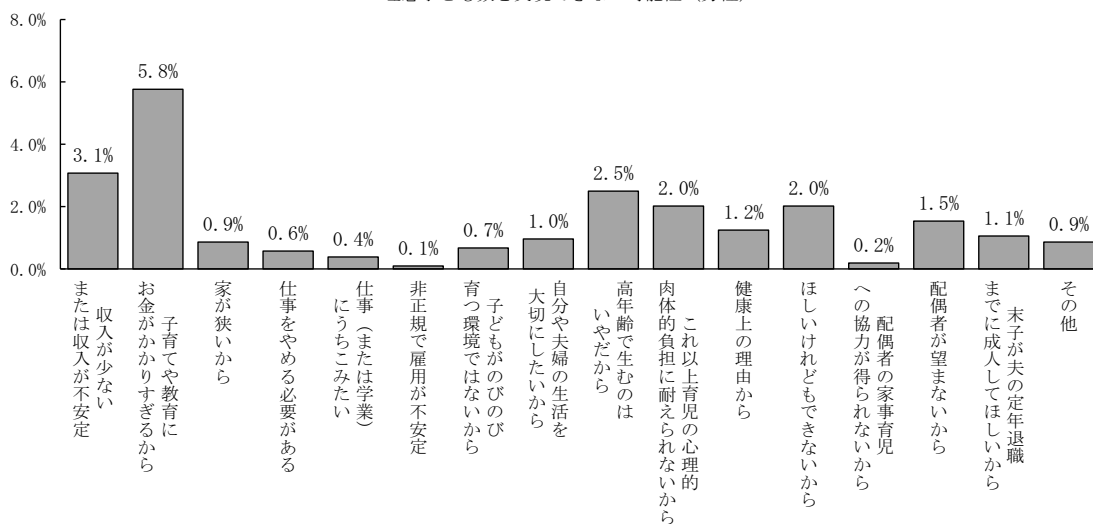
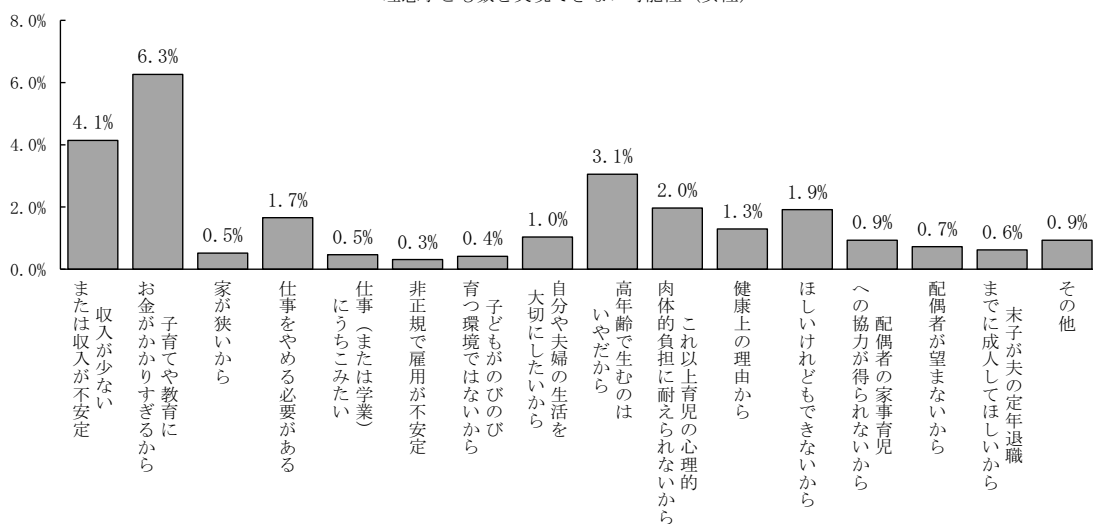
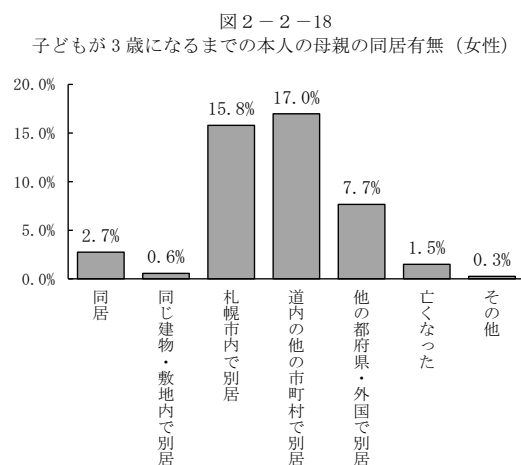
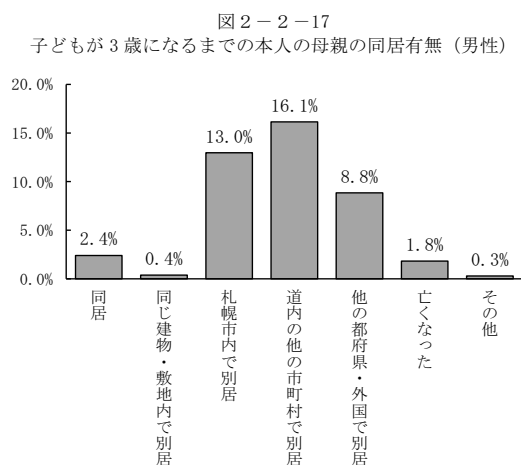


図2-2-16
理想子ども数を実現できない可能性（女性）



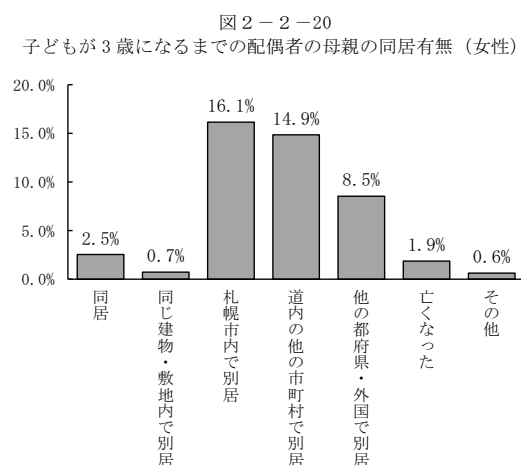
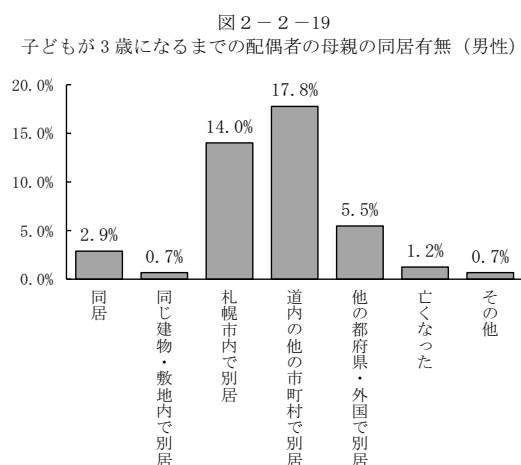
9) 子どもが3歳になるまでの本人の母親との同居の有無

子どもを持つ方を対象に、子どもが3歳になるまでの本人と本人の母親との同居の有無について聞いたところ、男女ともに母親との「同居」の割合は全体の3%未満と低く、「道内の他の市町村で別居」が男女ともに高い結果となった。



10) 子どもが3歳になるまでの配偶者の母親の同居の有無

子どもを持つ方を対象に、子どもが3歳になるまでの配偶者の母親との同居の有無について聞いたところ、男女ともに「同居」の割合は低く、女性は配偶者の母親と「札幌市内で別居」の割合が高く、男性は「道内のほかの市区町村で別居」の割合が高かった。



11) 制度や施設の利用

子どもを持つ方を対象に、子どもが3歳になるまでの間に利用した制度や施設について聞いたところ、男女ともに「どれも利用しなかった」の割合が高く、それぞれ男性15.9%、女性17.2%であった。次いで「育児休業制度(妻)」、「自治体が運営する又は許可を行う各種保育施設・幼稚園・こども園」が高い結果となった。

図2-2-21
子どもが3歳になるまでの制度や施設の利用(男性)

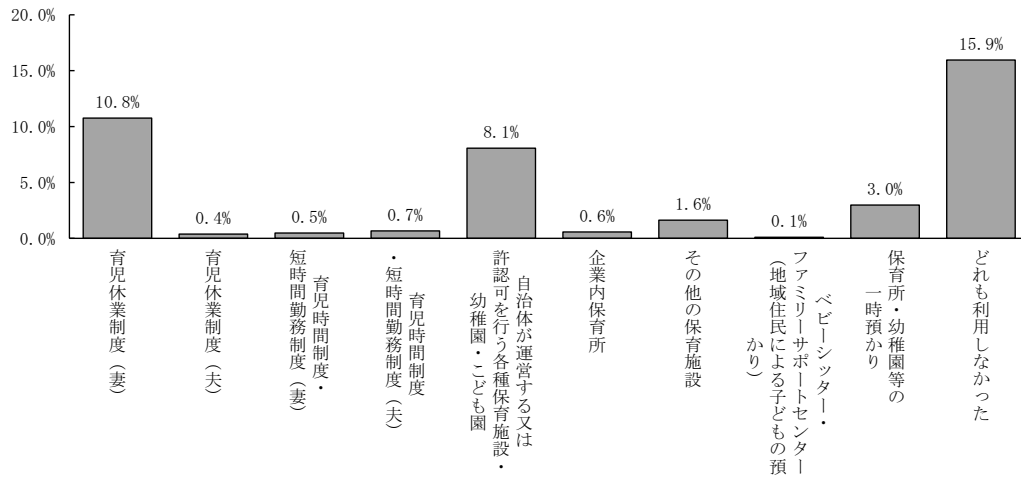
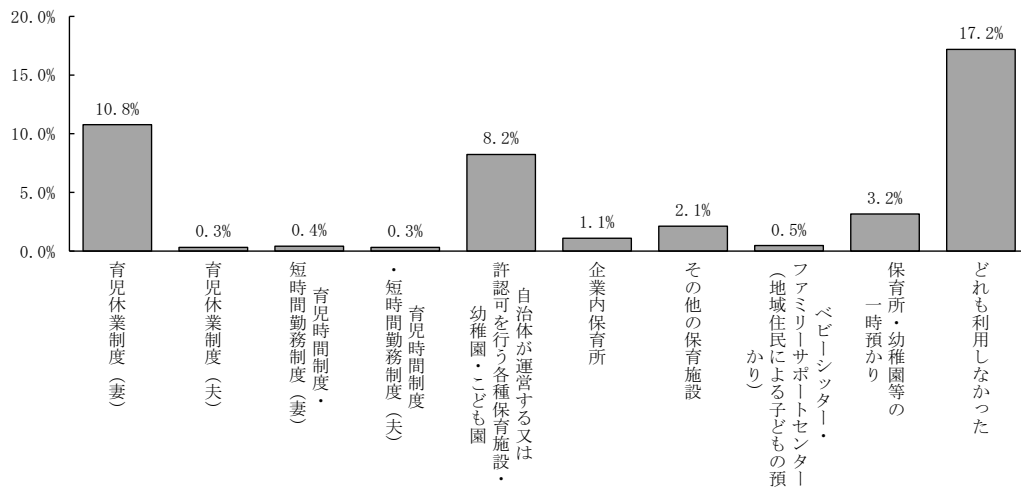


図2-2-22
子どもが3歳になるまでの制度や施設の利用(女性)



12) 出身地

生まれた場所は、本人ならびに配偶者どちらも「札幌市」の割合が男女ともに高くなっていた。また、男性の場合は「他都道府県」の回答割合が他の回答に比べて割合が高くなる傾向があった。

図2-2-23
本人の出身地（男性）

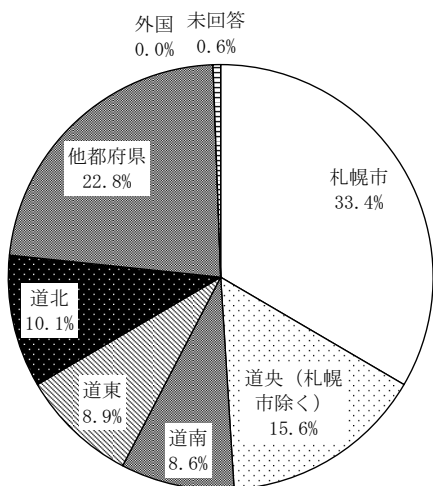


図2-2-24
本人の出身地（女性）

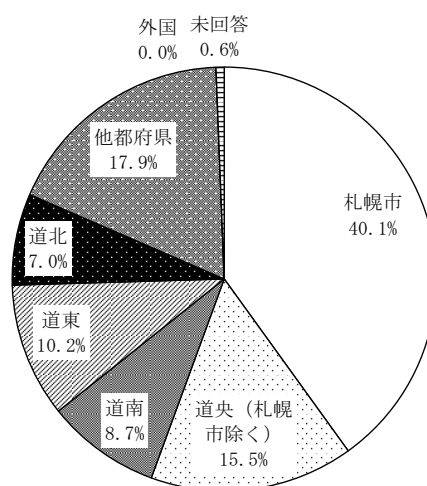


図2-2-25
配偶者の出身地（男性）

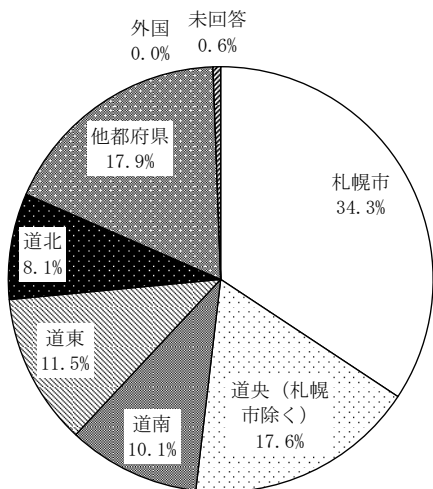
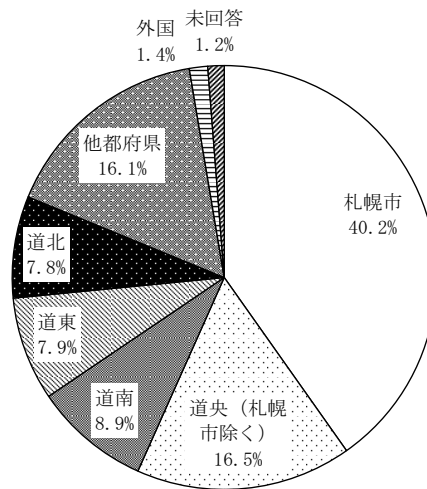


図2-2-26
配偶者の出身地（女性）



13) 出生年

本人と配偶者の生まれた年は、どちらも「1970年以前から」男性は「1975～79年」、女性は「1980～84年」頃を中心に割合が上昇しているが、「1985～89年」以降は急激に割合が低下している。

図2-2-27
本人の出生年（男性）

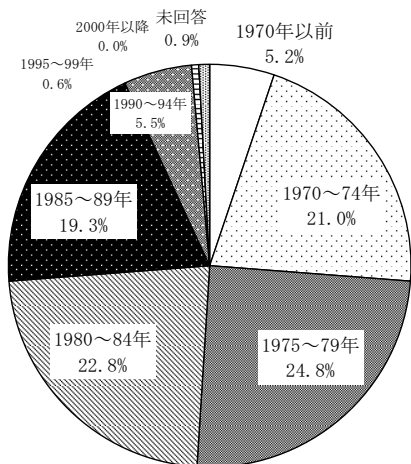


図2-2-28
本人の出生年（女性）

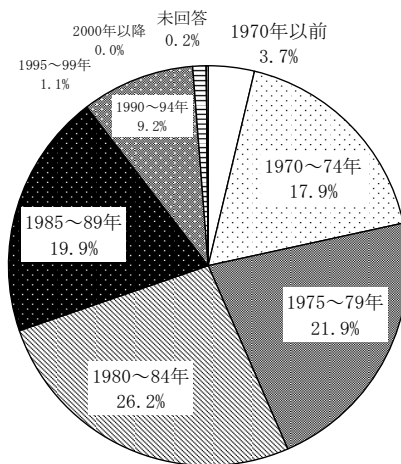


図2-2-29
配偶者の出生年（男性）

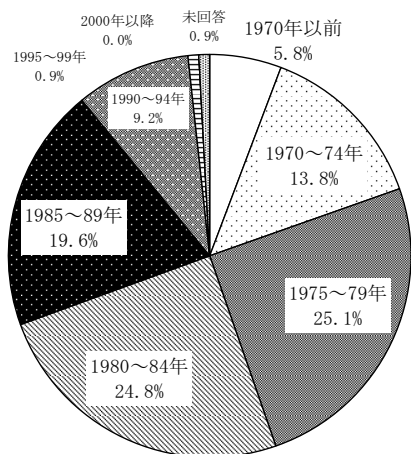
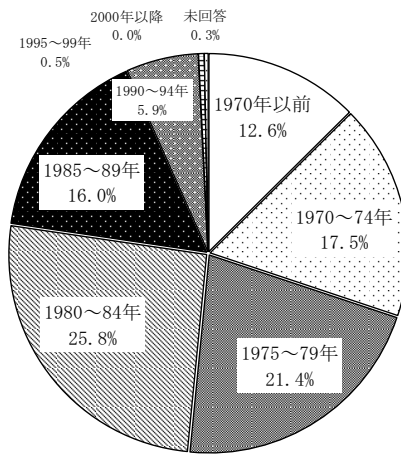


図2-2-30
配偶者の出生年（女性）



14) 現在の結婚生活を始めた時期

結婚生活を始めた時期は男女共に「2010～14年」頃の割合が高く、それぞれ26.5%、28.7%となっている。

図2-2-31
結婚生活を始めた時期（男性）

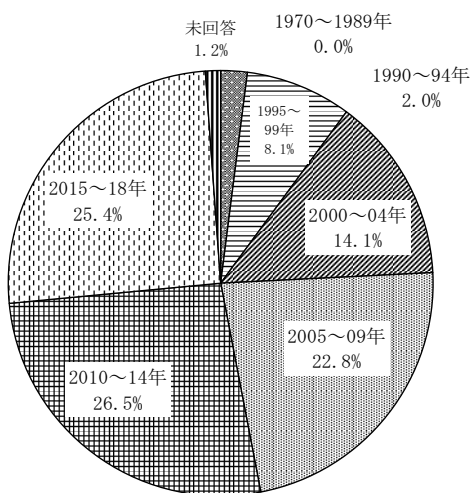
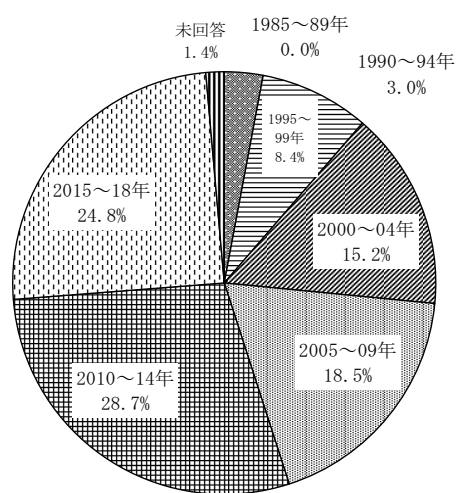


図2-2-32
結婚生活を始めた時期（女性）



15) 初めて知り合った時期

初めて知り合った時期は「1995～99年」頃から割合が増加し、「2010～14年」頃が高く、男性22.5%、女性22.0%となっている。次いで「2000～04年」が高い。

図2-2-33
初めて知り合った時期（男性）

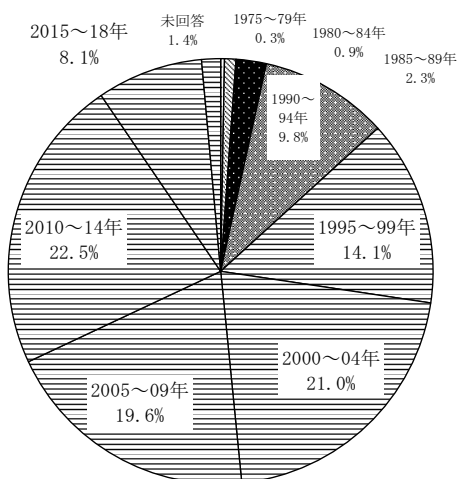
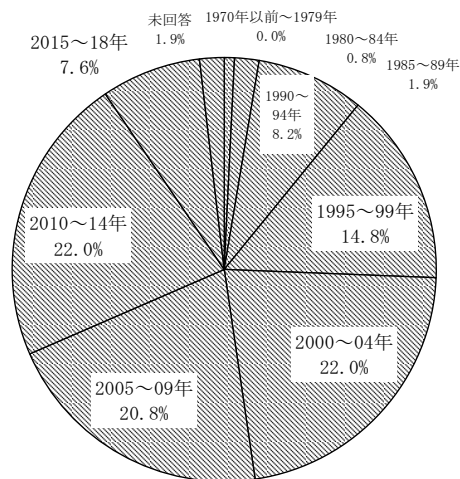
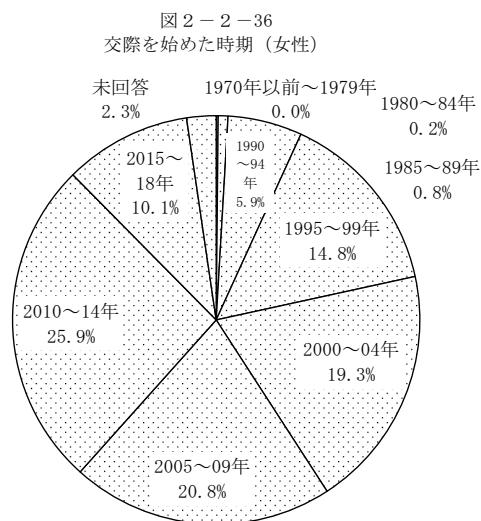
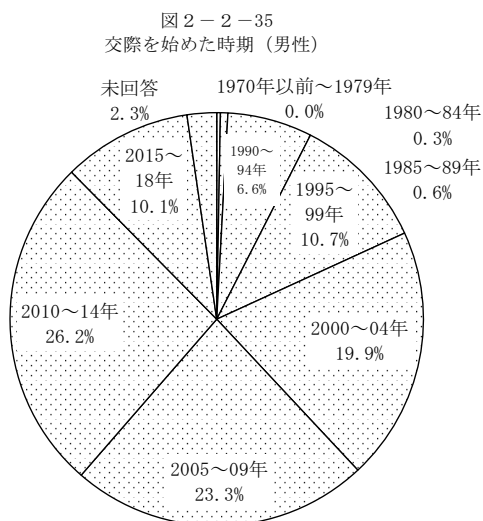


図2-2-34
初めて知り合った時期（女性）



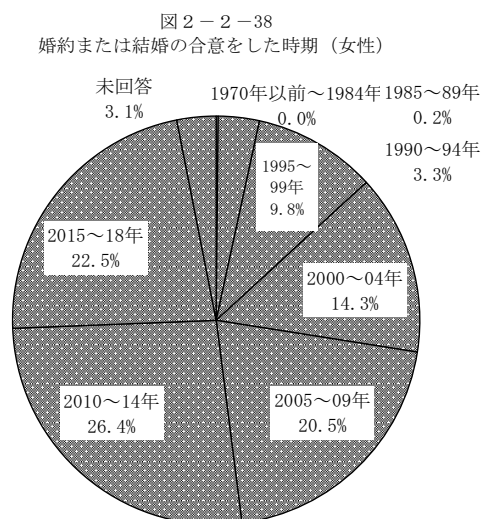
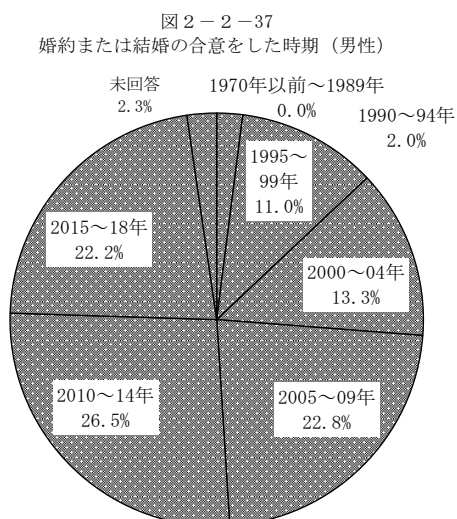
16) 交際を始めた時期

交際を始めた時期は「1995～99年」頃から割合が増加し、「2010～14年」頃が高く、男性26.4%、女性25.9%となっている。



17) 婚約または結婚の合意をした時期

婚約または結婚の合意をした時期は、「2010～14年」頃が高く、男性26.5%、女性26.4%、次いで「2015～18年」、「2005～09年」と比較的「2000年代」の割合が高い傾向であった。



18) 結婚経験

結婚経験の有無では、男女共に9割近くが「初婚」と回答しており、「再婚」は1割に満たない程度であった。

図2-2-39
結婚経験の有無（男性）

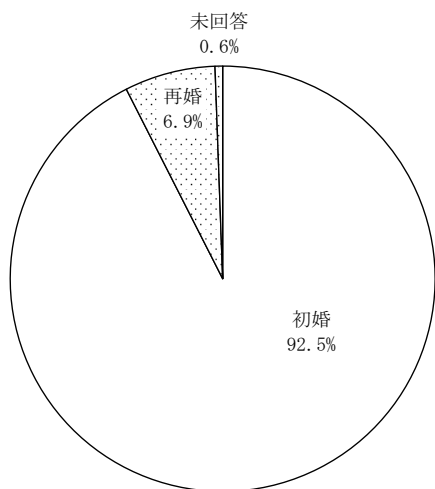
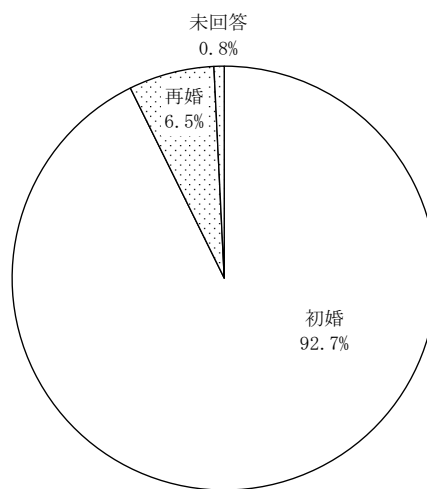


図2-2-40
結婚経験の有無（女性）



19) 初めて結婚したときの年齢

初めて結婚したときの年齢は、「25歳～29歳」頃が男女でそれぞれ約5割と高く、次いで「20歳～24歳」、「30歳～34歳」が高い結果となった。また、男性では「18歳～19歳」、「45歳～49歳」での回答は少なく、0件であった。

図2-2-41
初婚時の年齢（男性）

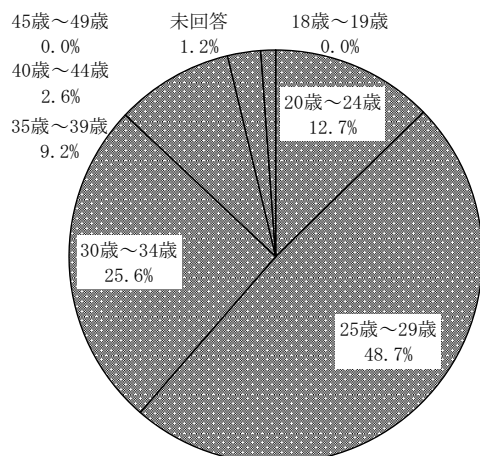
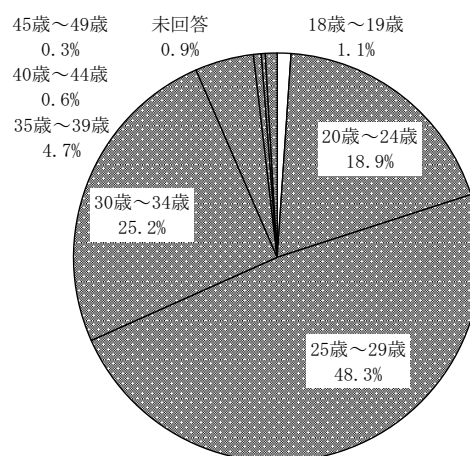


図2-2-42
初婚時の年齢（女性）



20) 本人の最終学歴

最終学歴については、男女共に、「共学の大学」の割合が高く、次いで「男女共学の高校」が高かった。またその学校を卒業したかどうかについては、男女ともに9割以上が「すでに卒業」であった。

図2-2-43
本人の最終学歴（男性）

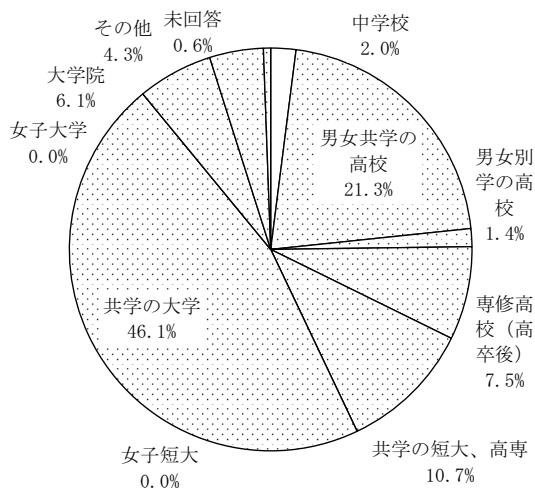


図2-2-44
本人の最終学歴（女性）

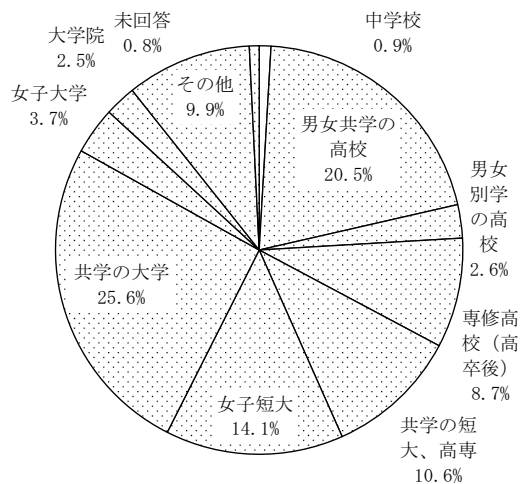


図2-2-45
本人の最終学歴校における卒業の有無（男性）

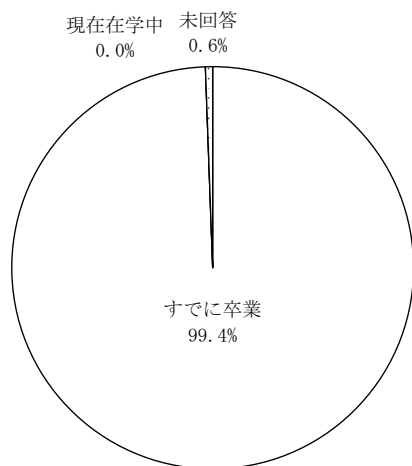
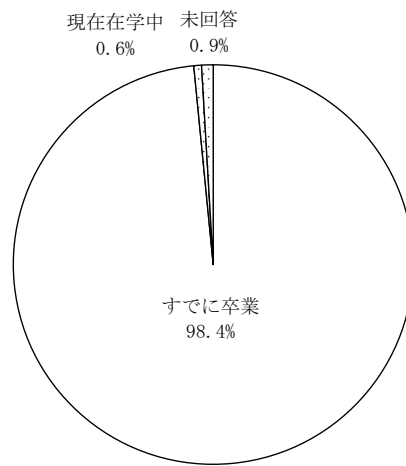


図2-2-46
本人の最終学歴校における卒業の有無（女性）



21) 配偶者の最終学歴

配偶者の最終学歴については、男女共に、「共学の大学」の割合が高く、次いで「男女共学の高校」が高かった。また、その学校を卒業したかどうかについては、本人と同様に9割以上が「すでに卒業」であった。

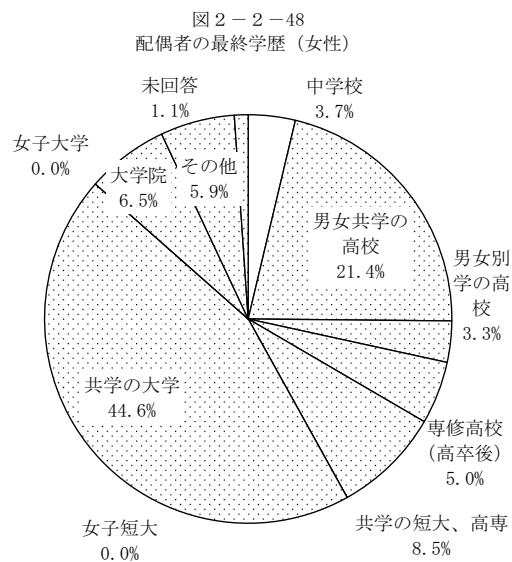
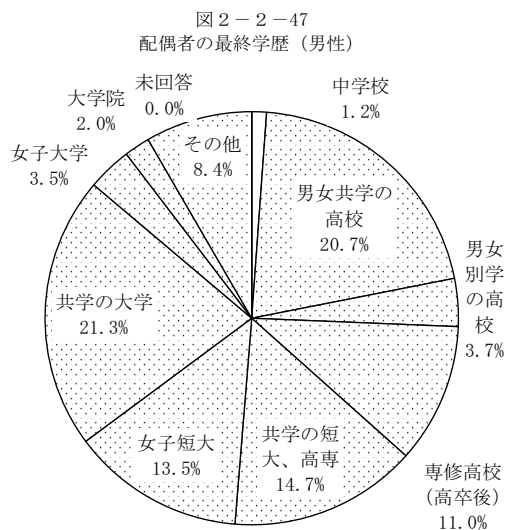


図2-2-49
配偶者の最終学歴校における卒業の有無（男性）

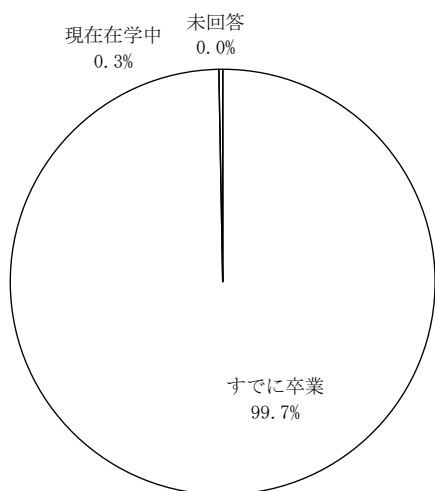
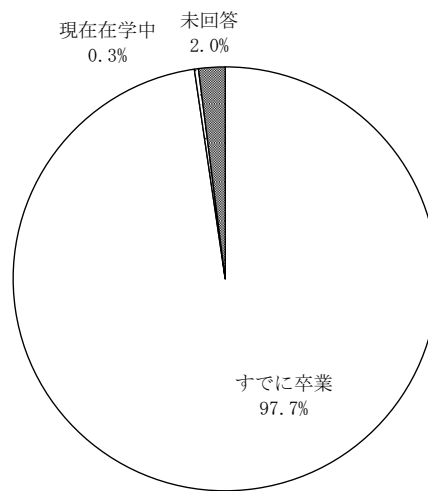


図2-2-50
配偶者の最終学歴校における卒業の有無（女性）



22) 札幌市での居住状況

現在の札幌市での居住の状況については、男女共に「市外から転入し、10年を越える居住」の割合が高く、それぞれ38.6%、34.0%であった。また男性の場合は次いで「市外から転入し、3年を越え10年以内の居住」が高く、女性の場合は「札幌市にしか居住経験がない」が高かった。全体を見ると回答者の約8割が市外からの転入であった。

図2-2-51
現在の札幌市での居住の状況（男性）

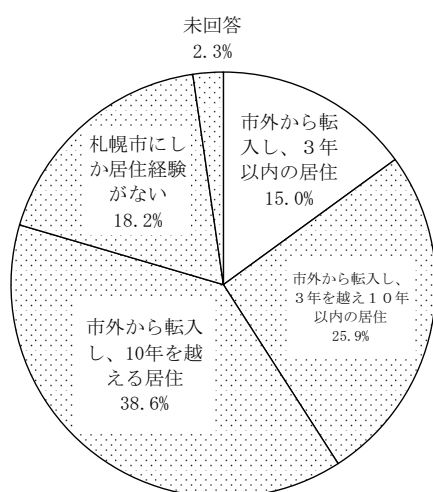
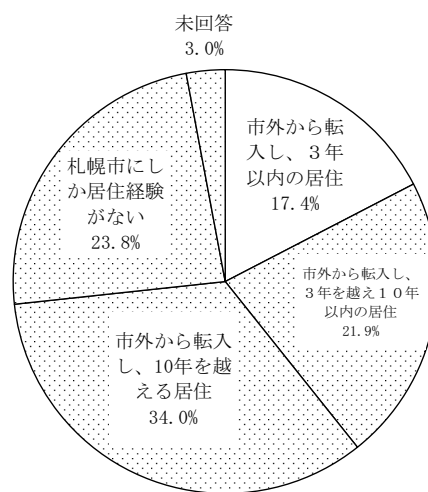


図2-2-52
現在の札幌市での居住の状況（女性）



23) 年収

男性が 300～600 万円、女性は 0～400 万円の割合が高い傾向にあり、男性の場合は「400 万円台」、女性は「0～99 万円」の割合が最も高い結果であった。

配偶者の年収についても男性の配偶者、女性の配偶者の年収で割合が高いのは、それぞれ妻が「0～99 万円」、夫が「400 万円台」であった。

図 2-2-53
本人の平成 29 年度の年収（男性）

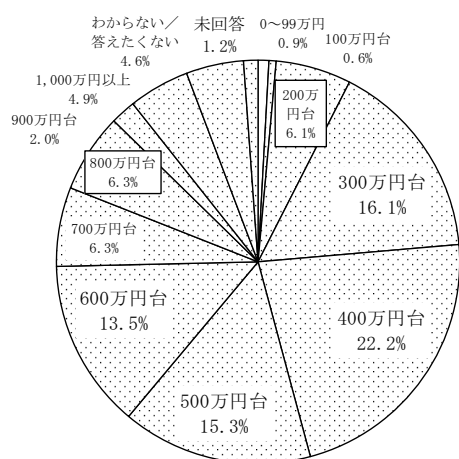


図 2-2-54
本人の平成 29 年度の年収（女性）

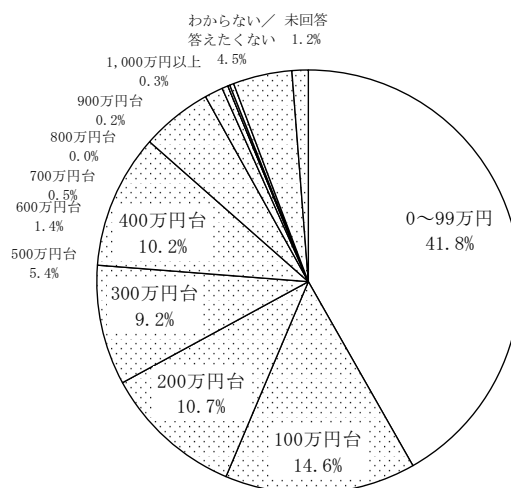


図 2-2-55
配偶者の平成 29 年度の年収（男性）

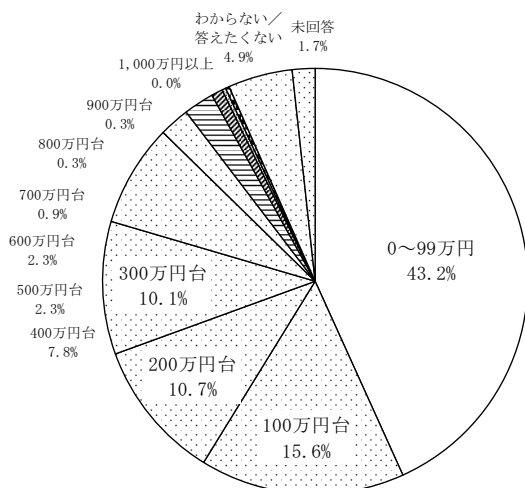
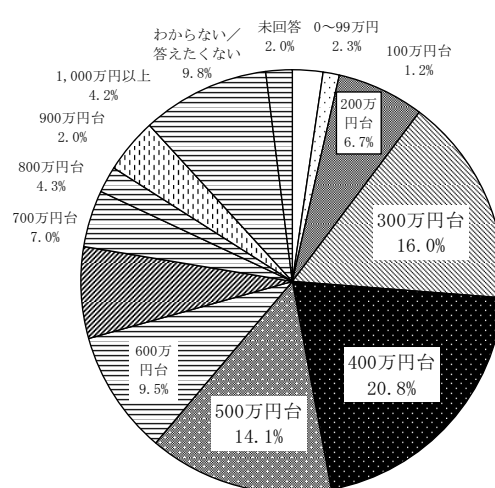


図 2-2-56
配偶者の平成 29 年度の年収（女性）



c p

24) 本人の現在の勤務状況

男女どちらも正社員の割合が高く、男性に至っては8割を超えていた。女性に関しては「無職、家事」が次いで高い割合であった。職種については男性が、「専門技術職」と「販売、サービス業」、女性は「専門技術職」、「事務職」の順で割合が高かった。

図2-2-57
現在の勤務状況（本人）（男性）

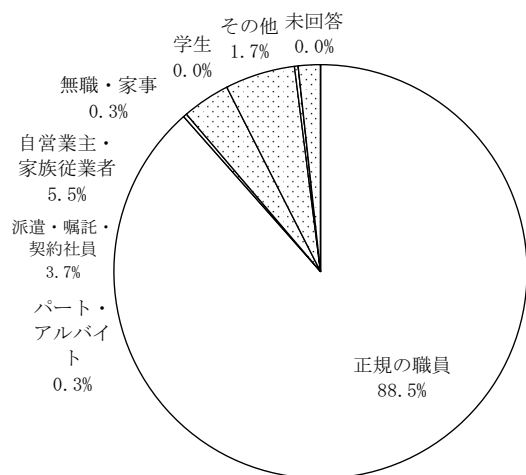


図2-2-58
現在の勤務状況（本人）（女性）

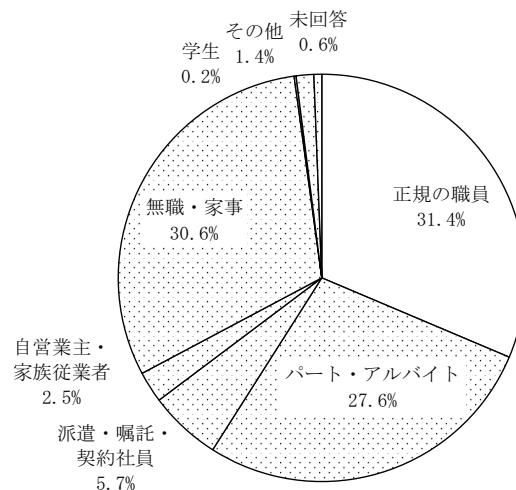


図2-2-59
現在の職種（本人）（男性）

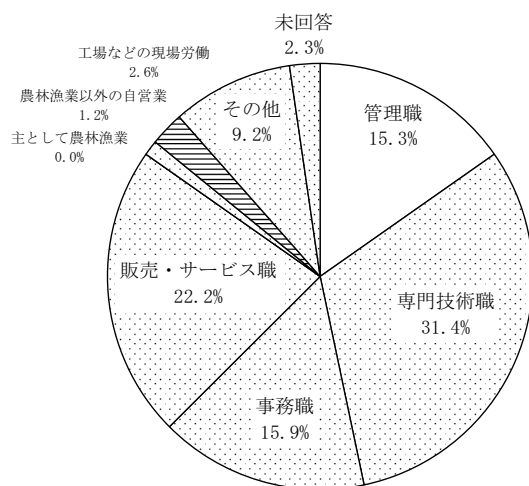
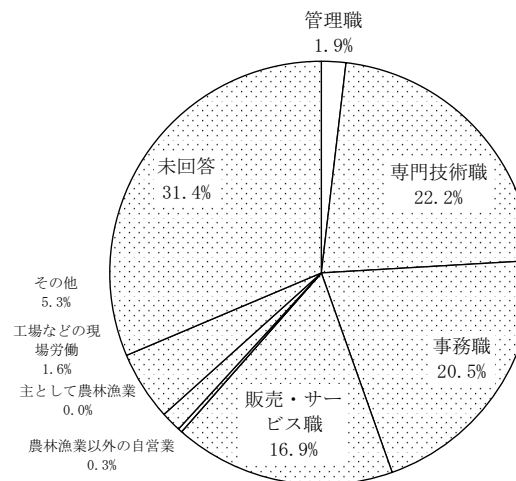


図2-2-60
現在の職種（本人）（女性）



25) 配偶者の現在の勤務状況

男性の場合、妻が「パート・アルバイト」または「無職・家事」の順で割合が高く、女性の場合は夫が「正規の職員」である場合が8割を超えている。職種については、男女ともに、配偶者が「専門技術職」次いで「販売・サービス職」の割合が高かった。

図2-2-61
現在の勤務状況（配偶者）（男性）

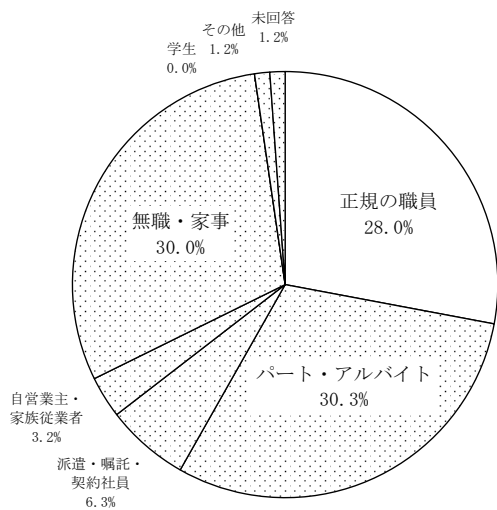


図2-2-62
現在の勤務状況（配偶者）（女性）

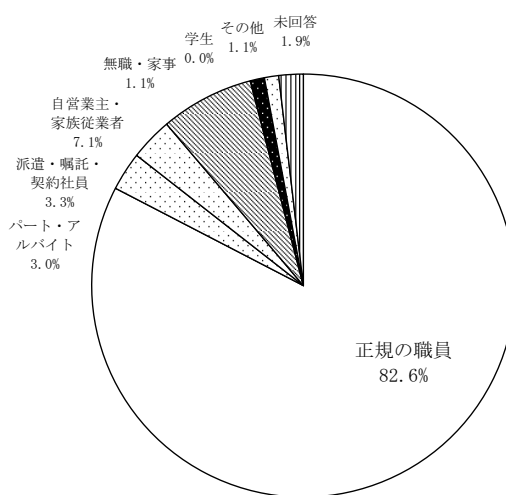


図2-2-63
現在の職種（配偶者）（男性）

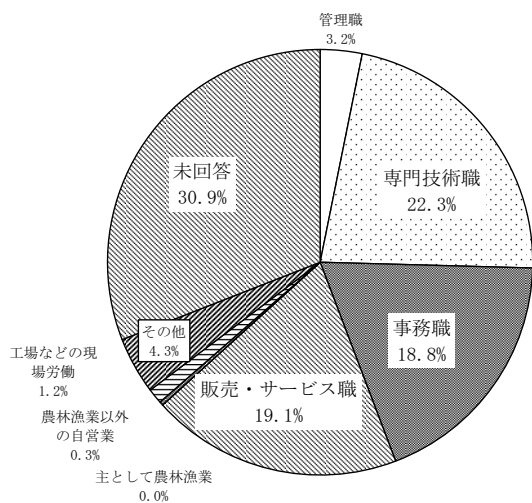
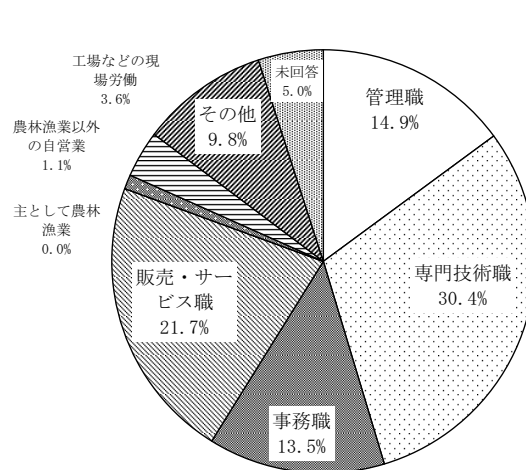


図2-2-64
現在の職種（配偶者）（女性）



26) 1日の平均的な労働時間

本人の1日の平均的な労働時間は、男性が「9～10時間」、女性は「7～8時間」の割合が高い結果となった。また「11時間以上」の回答は男女での差が大きく、18.8%の差があり、男性の労働時間が多い傾向である事がわかる。

図2-2-65
本人の1日の平均的な労働時間（残業時間を含む）（男性）

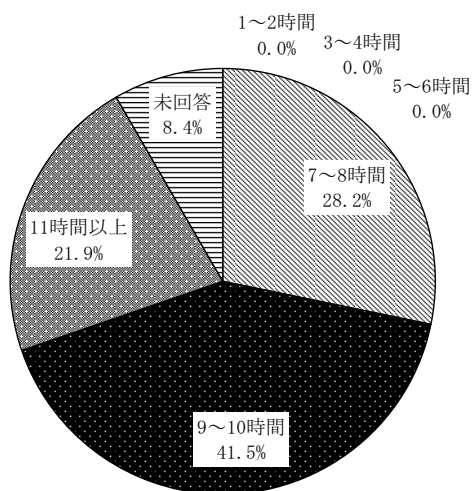
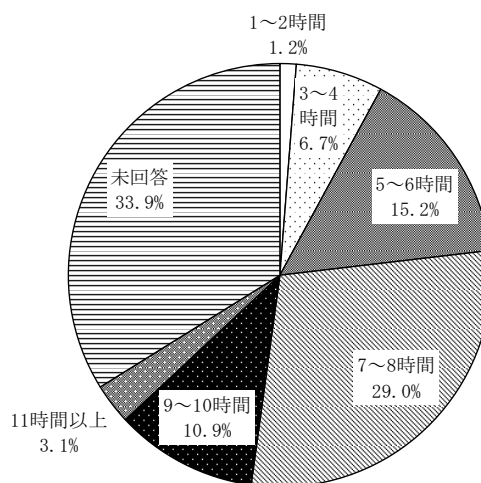


図2-2-66
本人の1日の平均的な労働時間（残業時間を含む）（女性）



また、配偶者の1日の平均的な労働時間でみると男性の場合、妻の労働時間は「7～8時間」で、女性の場合、夫の労働時間は「9～10時間」と男女ともに本人の回答と似た傾向となっている。

図2-2-67
配偶者の1日の平均的な労働時間（残業時間を含む）（男性）

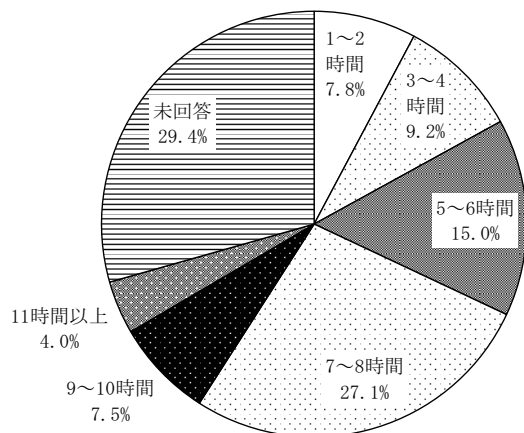


図2-2-68
配偶者の1日の平均的な労働時間（残業時間を含む）（女性）

